後進県の育成に努力

認識した指導者層の厚み

帆足久喜（宮崎県協会会長）

本県はおそまきながら昭和39年にハンドボールの仲間入りをしました。九州各県にハンドボール協会があるのに、当時の本県はまだ活動期にもはいっていなかった。日本協会の絶大なご協力があったのでなんとか形だけでもと思い、協会設立に踏み切ったわけです。ハンドボールにかけては後進県ですが、その意気たるや他の府県にまさるとも劣らないものを持っています。本県を九州におけるハンドボール王国にするのが私の願いです。それには日本協会はじめ九州各県協会のご指導以外にないと思います。ご指導によって本県の勢力が大きく伸長し、やがては全日本NO・1になって諸兄にご恩返ししたいと念じています。

ところで本県は高校の部でまずスタートしました。現在ではまだ7〜8チームを数えるだけですが、これがやがて大きな実を結ぶかと思うと自然に力がはいります。ここで私は、スポーツの発展には指導者層の厚みと質がいかに大きな価値を有しているかを認識しました。また発展のために大きなウエートを占めていることも知りました。

日本のトップレベルに達するには相当の時間がいるでしょう。本県にとって唯一の救いは宮崎大学にこの道のベテラン北村秀夫先生がおられることです。この上もない幸せといっていいでしょう。さっそく宮崎県教育委員会体育課や北村先生のご尽力で急速にハンドボールへの関心が高まり、しかも日本協会から佐野和夫君（教大出）を招いて指導講習会を開きました。一人でも多く優秀な指導者をつくること、これが本県ハンドボール発展の基になるのです。39年に協会誕生、つまり根をおろし、根を張りつつあるのです。それがやがて地上への芽の伸びとなる。私はあせらない。一歩一歩地固めして強固な基を築いていく。いずれハンドボールを通して「宮崎県という県が日本にあったのか」と言われる日が近いことを念じている次第。

物事の創成はなんによらず、なかなかむずかしい。なんの因果で現職の高校長が会長を背負わされるハメになったのか。だが若い人たちのためなら苦労するのは当たり前のことだろうと私は思った。むしろこのことは楽しい。

ご承知のように本県は高校野球で有名な高鍋高校、また高校駅伝で全国優勝3回の記録を持つ小林高校がある。この両チームの活躍で、日本地図を持ち出して捜さなくとも「宮崎県」という県は有名になった。小林高校に在任中、この初優勝をねらって三年計画をたて、これを成しとげた体験がある。これを見てもわかるように、すぐれて伸びるのも優勝するのも必然的なものであると確信している。こうした歴史的背景に、地理的不利や経済的あるいは文化的の弱点をじゅうぶん承知した上で極力育成に精進するつもり。この僻遠の地に対して、日本協会の格別のご指導をお願いしたい。チームはやがて倍加するだろうし、このほか宮崎大学チームもクローズアップされることだろう。また教職員チームも姿を現わすだろう。私たちは全国の諸君と対等に肩を並べる日を一日も早く実現できるよう努力しています。（了）

◇　◇　◇　◇

ハンドボール・27号目次　昭和40年10月号

〔表紙写真〕第3回女子7人制世界選手権に出場する宇井、久連松、古谷、早川、黒川の5選手（左から）

OLYMPIC

ハンドボール・36年ぶりにオリンピック登場

IOC総会で正式決定

1972年から実施

IOC（国際オリンピック委員会）は10月9日マドリード（スペイン）で開かれた総会で、1972年オリンピック大会（開催地未定）の実施種目について協議した。この結果、ハンドボール、柔道、アーチェリー（洋弓）の3競技を含むIOC公認の全21種目の実施を決定した。ハンドボールが正式種目として登場するのは1936年のベルリン大会いらい実に36年ぶりである。また1952年のヘルシンキ大会ではオープン種目として行なわれている。なお21種目全部が実施されるのは1972年の大会が初めて。

10月10日・IOC総会

72年五輪21種目を開催

【マドリード9日発＝共同】国際オリンピック委員会（IOC）総会は最終日の10月9日、最後の議題として1972年オリンピック大会（開催地未定）のプログラムについて討議した。投票の結果、柔道、アーチェリー（洋弓）、ハンドボールの3競技を含む21のオリンピック競技種目全部を実施することが決まった。

ブランデージ会長は記者会見で「実施競技数をふやす提案は、三分の二をわずかに越える賛成を得た」と語った。

これまでのオリンピックでは東京大会で20競技（その後水泳と水球が同一競技となったので現在の数え方では19競技）を行なったのが最高で、オリンピック競技種目の全部が実施されるのは1972年大会が初めてになる。

またアーチェリーが実施競技になったのはこれが初めてである。なお1972年大会の開催地は同年の冬季大会開催地とともに明年春のローマ総会で決定される。（10月11日付け報知新聞）

次期総会ローマで

【マドリード9日発UPI＝共同】IOCは9日、次回のIOC総会を明年春ローマで開くことに決めた。この総会で札幌が立候補している1972年の冬季オリンピックおよび夏季大会の開催地が決まる。

IOC新役員決まる

【マドリード9日発＝AP】IOC総会は9日、インドのソンディー氏の理事任期満了により、レバノンのガブリエル・ゲマイエル氏を新理事に選んだ。

また、ギリシャのワッパス、チェニジアのムザリ、チェコのクロウチル、スウェーデンのエリクソン、セネガルのベリー博士の五人を、新たに委員のメンバーに加えた。

これでIOC委員は72人となった。（10月11日付け読売新聞）

式場隆三郎会長の話　ハンドボールが実施種目に採用される見通しはあったが、こんどの総会で採用されるとは思わなかった。オリンピック東京大会のとき、各国のIOC委員にハンドボールのパンフレットを配布してPRしたかいがあった。戦前はベルリン大会で行なわれたが、戦後はヘルシンキ大会でオープンゲームとして行なわれただけ。とにかく正式種目になってこんなうれしいことはない。さっそく協会関係者と協議して対策をたてる。

準決勝リーグ組み合わせ 決まる

第3回女子7人制世界選手権

第3回女子7人制世界ハンドボール選手権大会の準決勝リーグは11月7日から西ドイツで開かれるが、このほど国際ハンドボール連盟から正式な組み合わせが届いた。

A組＝西ドイツ、ソ連、デンマーク対アイスランドの勝者、ユーゴ対米国の勝者

B組＝ルーマニア、ポーランド、ハンガリー、チェコ対日本の勝者。

◇11月7日（19時）

▽A組＝ベルリン・スポーツパレス

①デンマーク・アイスランドの勝者対ユーゴ・米国の勝者

②西ドイツ対ソ連

▽B組＝オヘンブルグ体育館

①ルーマニア対ポーランド

②チェコ・日本の勝者対ハンガリー

◇9日（19時）

▽A組＝ハノーバー・スポーツホール

①ユーゴ・米国の勝者対西ドイツ

②ソ連対デンマーク・アイスランドの勝者

▽B組＝フライブルグ州立体育館

①ハンガリー対ルーマニア

②チェコ・日本の勝者対ポーランド

◇11日（19時）

▽A組＝ボッフム・ルール州体育館

①デンマーク・アイスランドの勝者対西ドイツ

②ソ連対ユーゴ・米国の勝者

▽B組＝ルドビグスハーヘン・ホール

①チェコ・日本の勝者対ルーマニア

②ポーランド対ハンガリー

◇13日（16時）

順位決定戦＝ドルトムント市ベストハーレン体育館

7―8位、5―6位、3―4位

1―2位決定戦

ソ連のハンドボール人口は52万人

ことし1月1日現在、ソ連の登録選手数は52万人を越え、そのうち31万人はジュニアである。

前年度の男子チャンピオンはブレベストニク・チブリシ、女子はツルド・モスクアである。

国内選手権大会の最終大会は男女と24チームをグループに分けて行なう。ことしの国内選手権大会は二回に分けて行なう。第1回は4月、5月にキエフ、レニングラード、シャクチ、クラスノルダの各市で行なわれた。第二回の最終大会は男女各24チームが参加して次の日程で行なわれた。

▽男子一部（9月10～17日）チブリシ市

▽女子一部（9月20～27日）カウナス市

▽男子二部（9月3～10日）アルマータ市

▽女子二部（9月17～24日）リガ市

オランダでジュニア大会

オランダ・ハンドボール協会はジュニアチームによる世界選手権大会を開催する。開催時期は男子7人制世界選手権大会と重なるのを避けて1967年3月4日～12日に延期された。この大会に参加するのは昭和20年～23年に生れた男子および女子である。参加登録は次のとおり。

◇男子ジュニアチーム

西ドイツ、オーストリア、ベルギー、スペイン、ポーランド、ルーマニア、セネガル、スウェーデン、スイス、オランダ。

◇女子ジュニア・チーム

西ドイツ、オランダ、ポーランド、ルーマニア、スウェーデン

学生大会もオランダで

第3回世界学生選手権大会（男女）はことし10月3日からオランダのドーチンヘムンアで行なわれた。

▽参加登録チーム

（男子）スイス、ベルギー、スウェーデン、ユーゴスラビア、オーストリア、イスラエル、西ドイツ、スペイン、チュニジア

（女子）ユーゴスラビア、イスラエル、オーストリア

第1回のスウェーデンでの大会には日本も参加したが、優勝はスウェーデンであった。第2回は昨年マドリードで行なわれ、西ドイツのギュンメルスバッハ体育大が優勝した。

ヨーロッパ・カップの日程

ヨーロッパ国各のチャンピオンによりトーナメント方式で争われるヨーロッパ・カップの大会実施方法は新しい方式で行なわれる。各ラウンドが終わるごとに次のラウンドの組み合わせ抽選をパリのレキップ社（スポーツ新聞＝本大会の創始者）で公開で行なうことになった。このため次の対戦相手がどこになるか抽選までわからないことになった。したがって大会の魅力を増加させることになるだろうと期待されている。

△　▽

▽　▽

GK 古谷芳枝

マネジャー 岩崎美栄子

コーチ 宮原俊隆

団長兼監督 高嶋洌

第3回女子7人制世界選手権大会

栄えある代表16人

団長に高嶋洌氏

第3回女子7人制世界ハンドボール選手権大会に出場する日本女子チーム、高嶋洌団長兼監督ら一行16人の横顔を紹介する。（鷲尾記）

欧州球界で有名

団長兼監督 高嶋洌（日本協会理事長）

ヨーロッパ球界でも彼ほど名の知れたスポーツ人はいない。日本国内ではいまや〝ハンドボールの高嶋〟から〝体協の高嶋〟に一歩ジャンプした。こんどの遠征を引き受けるときは死の苦しみだったようだ。というのは芝浦工大の教授であり、学生課長でもある。来年4月から新校舎が大宮市郊外（埼玉県）にできるので、その準備、計画に追われているからだ。「大学当局の好意に感謝している」と口ぐせのように言っている。「もう私の出る幕じゃない」と言うものの、協会首脳部の連中から「たのむよ。タカさん」と言われると、断わり切れない損な男。「こんどの遠征は大崎電気、大洋デパートはじめ各実業団の社長さんの絶大なるご協力があり、その意味においてもがんばる」と早くも怪気炎。43歳

かつての名選手

コーチ 宮原俊隆（大崎電気女子監督）

昭和35年の第15回国体（熊本）で右ヒザを痛め、それいらい第一線を退いて女子チームの育成に当たっている。右ヒザの故障がなければ、男子のトッププレーヤーとして活躍していることだろう。女子選手の全員がいう。「とてもこわい監督さんです。でもそれはボールを握ったときだけ。ふだんはいい先輩です」とほめる。芝浦工大の黄金時代を築いた一人。宮原（藤）とのコンビはすばらしかった。大崎電気での竹野とのコンビもよかった。今野男子監督は「バラ（宮原のこと）が男子チームにいたら、天下無敵ですよ。ああいうプレーヤーはざらに出るものでない」といっているほど。女子チームの育成にかけては彼の右に出るものはない。28歳。

美人で才女

マネジャー 岩崎美栄子（大崎電気社長秘書）

大崎電気の男女両チームの面倒をよくみている。渡辺社長―選手の間にはいってパイプの役目をしている。社長の方針は彼女を通じてチームへ、またチームのできごとは彼女を通じて社長へ…。これならうまくいくはず。とにかく大崎電気のハンドボールにとって、なくてはならない貴重な人である。「社長に引きづられていつの間にかハンドボールに興味を持ったのです。ハンドボールっておもしろいですね。スピード、スリルがあるハンドボールを、なぜマスコミがもっと取り上げないのか不思議です」となかなか手きびしい。専業の社長秘書のほかに東京都ハンドボール協会、全日本実業団ハンドボール連盟の仕事をお手伝いしている才女。「年齢は…」と聞いたら「それだけはカンベンして…」。美人で、しかも江戸っ子。

人間的に成長

GK 古谷芳枝（1）（大崎電気）

二度目のヨーロッパ遠征。キャップテンの宇井君のよきパートナーである。通称〝よっちゃん〟。落ち着いて（？）いることでは大崎随一。茨城県水海道市向ヶ丘中学の3年のときに「ハンドボールをやってみないか」と先生からいわれたのが動機。水海道二高に入学してから本格的にハンドボールを始めた。ハンドボールの監督はかの有名な砂長先生。水海道二高の選手は一見して弱々しく見えるが、どこかシンがある、愛知紡の古谷うめさんとは同期生。36年3月下旬に大崎電気に入社いらい、4年以上もゴールを守っている。「2度目の世界選手権は感激です。宇井さん、黒川さんとよく相談してチェコに1勝したいです」という。ライバル川崎幸子（大崎電気）の上達に刺激を受け、さらに磨きをかけている。「ことし8月大分の全日本総合選手権決勝で、大洋デパートの西村さんに残り5秒前にシュートされたときはくやしかった」と当時のことを思い出してくやしがる。ハンドボールをやって人間的に成長したことは、彼女の環境を知るものにはよくわかる。がんばり屋。23歳。

FP 黒川泰恵

FP 笠原 喜代子

FP 久連松美和子

主将・FP 宇井 敬子

よく走る「人間機関車」

主将FP 宇井 敬子（2）（大崎電気）

2度目のヨーロッパ遠征。FPとしては全日本NO・1。あの小さなからだでよく走る。強化合宿を見てもいちばん早い。ハンドボールをやるために生れてきたような大和なでしこ。動きが鋭く、カンもいい。日本チームのチャンスメーカーとでもいっておこう。チェコスロバキアの大型選手を手玉にとるプレーが目に浮ぶ。「1962年に遠征したとき、倒れ込みシュート、飛び込みシュートを覚えたが、あれから3年。こんどはヨーロッパのチームがどんなプレーを見せてくれるか非常に興味がある。しかしその反面大いに不安でもあるのよ」。 こういったあと「走る自信はある。 チェコスロバキアの選手に絶対走り負けません」と抱負を語る。前回遠征の古谷芳枝、黒川泰恵選手とスクラムを組んでチームの中心になってほしい。「チームをまとめることは私の責任。自分を殺してチーム全体のためにベストを尽くします」ともいう。大崎電気の女子チームを引っ張って行くところは「人間機関車」といった感。通称「ケコ」栃木女子高校出身。22歳。

がんばり屋さん

FP 久連松美和子（3）（大洋デパート）

西村八千代のよきパートナー。とにかく大洋デパートの主力であることは有名。「大洋との試合では絶対に反則をするな」とさえいわれている。というのはフリースローのとき、この久連松のフリーシュートの成功の確率が非常に高いからだ。それだけ恐れられている存在。非常に無口。彼女がしゃべっているのを見たことがない。熊本市龍南中学からハンドボールを始め、熊本市立高で北川先生にみっちり仕込まれた。「バスケット、バレーボールは背の高い方が有利だが、ハンドボールは必ずしもそうと思いません。だから私にもできるのです。スピードがあって非常におもしろいスポーツです」とハンドボールのよさをよく知っている。「団体生活で礼儀、規律の正しさを身につけたのは私にとってプラス。それにがんばりの精神が、私のからだのどこかにひそんでいる」という。井監督から遠征の話を受けたとき、「どうしようかと考えました。責任を感じています。西村八千代さんが喜んでくれた。私は社長さんのためにもがんばります」。 恋人はまだらしい。23歳。

ものすごいヒラメキ

FP 笠原 喜代子（4）（大崎電気）

GK古谷の一年後輩。水海道二高の同級生に田村うた子（元大崎電気、前回出場）、渡辺征子（レナウン）がいた。「世界選手権のメンバーに選ばれてちょっと荷が重い気持ちです。ヨーロッパのハンドボールを自分の目で見たかっただけに、社長さんに感謝しています」という。ハンドボールを始めた動機がおもしろい。水海道二高のクラブ活動はハンドボールとバレーボールしかない。この二つを比較したらハンドボール部の方が強いことがわかり、それでハンドボールに首を突っ込んだ。「ハンドボールを通じて自分の身についたことは団体生活のきびしさ、ルールを守ること、自分勝手なプレーができないこと、融和の精神が必要なことを知り、これが私にとってプラスになりました」となかなか頭がいい。カンがいいというよりも、ものすごいヒラメキを持っている選手。足が早い。人間機関車の宇井にヒケをとらない。〃考える葦〃ではないが、プレーしているさなかに次の動きを考え、それをとっさに利用するという緻密な選手。21歳。

実にうまい防御

FP 黒川 泰恵（5）（大崎電気）

宇井、古谷に次いで2度目のヨーロッパ遠征。通称「クロちゃん」。色は黒いけれど、この「クロちゃん」のクロは〃黒川〃の〃黒〃からきたもの。〃性温順にして…〃という言葉があるが、そのとおりおとなしいことにかけてピカ一。試合のときはあまり目だたない。だがディフェンスに回ったときのプレーは実にうまい。ツボをよく知っている。いざ試合…となると、あのおしとやかな乙女から、すばらしいファイトが飛び出てくる。実に不思議である。最近は攻撃力も身についてきたので心強い。「チームのみんなと仲よくやっていきたい。大崎の同僚が多いので心配はない。私は体力的に限界にきているんじゃないかと自問自答することがあるのです。でもボールを握ると忘れちゃうんです」と笑う。「2度目の遠征はうれしいが、それだけ責任も重い。宇井さん、古谷さんとがっちりスクラムを組んでいく」という。将来はスポーツとしてよりもレクリエーションとしてのハンドボールをやっていくとか。「バレーボールの河西さんのように自分のスポーツを愛したい」。 静岡城北高出身。22歳。

FP 永井昭子

FP 高山やよい

FP 鈴木功子

FP 早川清美

ロングが魅力

FP 早川清美(6)（大崎電気）

半田高—愛知紡—大崎電気と陽の当たる場所に育った割にはちょっとそそっかしい。これは先天的なものだから仕方がない。最初のシュートが決まるか決まらないかで、彼女のその日の出来がすぐわかるほど。しかし最初の一発が決まったあとのプレーは実に見事。手がつけられないとはこのことをいうのだろう。それだけに魅力。右ひじを痛めて通院すること約1年。この努力が実ってメンバーに選ばれた。遠征メンバー切ってのロングシューター。あまりほめるといけないから苦言を呈しておこう。足がおそい。これが玉にキズ。これが彼女の宿題。彼女はいう。「下半身を強くし、重心を落としたプレーをやろうと努めてきたが、結果は思ったほどでなかった。がっかりした。強化合宿ではあるていど自信がついた。それにディフェンスが弱いので、この練習に重点をおいた。ハンドボールってダッシュがポイントですね」—これを早くマスターしてほしい。愛称「キヨミ」。最近まで川崎幸子と一緒に東京都ハンドボール協会の事務を手伝ってきた。21歳。

走力はピカ一

FP 鈴木功子(7)（大崎電気）

早川とともに日本チームの攻撃力の中心。鋭いカンの持ち主。カットインが得意。ということは足が早いことである。宮原コーチは「宇井、鈴木は足が早いのでたのしみ」といっているほどだ。走力はピカ一。1—5ディフェンスの“1”はつまり彼女のこと。動きもいい。攻撃面では非の打ちどころがない。昨年女子の世界選手権大会参加が決まったとき、いちばん先に名が出たのがこの鈴木。それほどプレーは信頼されている。中学時代はバレーボール、バスケットボールをやっていたが、静岡城北高に入学してからハンドボールを始めた。「城北高の練習がきつかったと思ったが、大崎の練習はもっときつい。それがよかったと思っています。ハンドボールをやってよかったと思うのは、みんながすぐ集まること。そしてたのしく話し合えること。スポーツっていいですね」。同級生はGKの川崎幸子、それにハンドボールをやめた林雄子さん（レナウン）。「私は走るしか能がないんです。欠点は相手にフェイントをかけられるとダメなんです」—おのれをよく知っている。21歳。

すばらしいファイト

FP 高山やよい(8)（大洋デパート）

大洋デパートが自信を持って送り込んだ選手。将来大洋デパートを背負って立つだけのことはある。小柄だが、肥後女性の持つファイトはすばらしい。熊本県菊池農高が生んだ好選手。菊池市迫間中学の3年のとき、福田先生から「ハンドボールをやってみないか」といわれたのがきっかけ。県中学大会に出場して大いに気をよくしたという。菊池農高に入学してから荒木先生の指導でめきめき腕を上げた。「ハンドボールはおもしろいスポーツ。ハンドボールをやってよかったと思っています。わがままな私がずいぶんおとなしくなったんです。自分で驚いています。大洋デパートに入社してからは礼儀が正しくなり、生活も規則正しくなりました。上司、同僚に対しても言葉使いがていねいになり、大きな目でみたらプラスの面がたくさんあります。他のスポーツでは見られないことですね」。遠征が決まったとき、“果たして自分にそれだけの力があるかどうか”反問したとか。強化合宿については「ハンドボールは走らないと勝てないことがわかりました」という。20歳。

すばらしい制球力

FP 永井昭子(9)（大崎電気）

「アコ」の愛称でみんなから親しまれている。柔和な顔、ちょうどエビスさまのようだ。サウスポーはなんといっても魅力。「ヨーロッパのサウスポーのプレーをじっくり勉強してくる。もちろんチェコスロバキアには勝ちたいと思っていますよ」—。小学生から中学生にかけて毎日稲沢高校の前を通るので、ハンドボールの練習をよく見ていたとか。そのうちスピードとスリルに魅入られ、稲沢高校1年のときに先輩のすすめがあったので、思いどおりハンドボールを手にした。「やってみておもしろかった」という。38年3月卒業と同時に大崎電気に入社。肩が強く、コントロールがすばらしくいいので、貴重な7MT要員。いままでジャンプ力が不足していたが、最近ジャンがよくなったのが強み。親たちから「そろそろハンドボールをやめては…」と言ってきたが、これを振り切ってハンドボール一筋に生きてきた乙女。「帰国してもあと2年ぐらい続けます」となかなか張り切っている。「監督さんから遠征の話があったとき、感激しました。だって私の夢が実現するので…。社長さん、ありがとう」。21歳。

FP 新保いく子

GK 川崎幸子

FP 加藤井子

サブマネジャー 伊藤せつ子

宿題はスピード

新保いく子(10)（大洋デパート）

熊本県水俣市立一中時代は万能選手。昭和34年に水俣市で全日本総合ハンドボール選手権大会を見物に行ったのが、ハンドボール入門の大きなきっかけ。35年4月に水俣高に入学、熊本国体があるので急いでハンドボール部をつくって始めたという。部ができて2回目の卒業生とか。38年3月に大洋デパート入社。「ハンドボールってスピードがあるでしょう。スポーツにスピードがなけりゃつまらない。私はハンドボールをやってよかったと思っている。それに大洋デパートは団体生活でしょう。先輩のいいところを学びとり、礼儀正しくなったんです。ですから家のものが驚いています。ほかのスポーツだったら、私は成長しなかったかもしれません」。欲をいえば、彼女はもっとスピードをつけることだ。カンはいいし、動きもいい。将来大洋のエースになることは間違いない。だからスピードさえ身につければいい。シュートも確実。ディフェンスはヨーロッパへ行ったとき、マスターしてくればいい。すらりとした八等身。「とにかくしっかりやるだけです」。20歳。

すばらしい強肩

GK 川崎幸子(11)（大崎電気）

「ユッコ」—これは彼女の愛称。なかなかしっかりしている。宮原コーチにどなられ、涙を浮かべながらボールに飛びついて行く。ものすごいファイトを持っている。大崎電気では秘書室勤務。岩崎マネジャーの片腕として働き、そのかたわら東京都ハンドボール協会の事務も手伝っている。「私は泣き虫ですが、ハンドボールはとても好き」という。四番目の兄健三君（教大出、バスケットボール選手、現清水西高勤務）は静岡城北高の望月先生の後輩。この健三君が城北高へバスケットボールのコーチに行ったとき、ハンドボールのよさに心を奪われ、「幸子、お前はハンドボールをやれ」。このひとことで城北高のハンドボール部に籍を置いた。最初二カ月ばかりFPをやっていたが、すぐGKに転向。「私は未熟。でもヨーロッパのGKの良所を全部吸収してくる自信は持っています」という。

GKのうまいボール出しは1点につながる。この点心配はない。すばらしい強肩の持ち主。欲をいえばボールに飛びついていく気力がほしい。「古谷さんに負けないようがんばる」。20歳。

未完の大器

FP 加藤井子(12)（大崎電気）

ことし4月に大崎電気に入社したばかりの新人。昭和21年6月2日生れ。つまり戦後、おぎゃーといって生れたわけ。チーム中いちばん若く、芳紀まさに19歳。入社6カ月で世界選手権大会出場の幸運を握り、これ以上の幸せなことはいない。「井子」と書いて「セイコ」と読む。名前をつけたいわれを聞き忘れたが、永井と同じようにサウスポー。しかもチーム中いちばん背が高い。〝未完の大器〟ということばがピッタリするほどの選手。37年4月に新居浜東高（愛媛）に入学、友だちにすすめられてハンドボールを始めた。3年先輩に白石選手（元大崎電気）がいた。「ハンドボールはおもしろい。2年生のときに山口国体に出場したが、とてもうれしかった。世界選手権に参加できる喜びは言葉で表現できないほどうれしい。大崎電気の団体生活で礼儀正しくなったのは私の大きな幸せ」という。宮原コーチがいちばん恐いそうだ。「私は若い。先輩に追いつくよう努力します。石の上にも3年。人間死ぬまで努力です。社長さんのご恩に報いるよう努力します。ちょっとなま意気かしら」。

名マネジャー

サブ・マネジャー 伊藤せつ子(13)（大崎電気）

大崎電気女子チームのマネジャー。こんどチーフ・マネジャーになった岩崎さんの助手。つまりプレーイング・マネジャーというところ。彼女にとって打ってつけの役。33年4月に静岡城北高に入学したとき、中学の先生や先輩のすすめがあってハンドボールに身を投じた。36年4月に大崎電気に入社し、38年2月の全日本実業団選手権大会を最後に第一線から退いた。「9月22日に社長さんに呼ばれ、岩崎さんのお手伝いをするように言われたときはビックリしました」と彼女はいう。現役時代は宇井に少しも劣らない動きをみせた。こんどの強化合宿でも選手といっしょになってプレーしていたが、なかなかいいプレーをみせていた。第一線に使えないのはなんといっても残念。マネジャーになってからは男子、女子の面倒をよく見る。キップの購入、旅館の手配、練習のための体育館確保など精力的な働き。東京体育館はもちろん、横浜文化体育館、駒沢体育館などへ行くと、「やあー、せっちゃん、またきたか」といって手続きは極めてスムーズ。よく気のつく乙女である。22歳。

女子強化練習を見る

男子のフォーメーションを

大崎電気男子チームがコーチ

世界選手権大会に出場する日本女子チームは9月15日から30日までに第1次、10月4日から19日まで第2次合宿を東京駒沢体育館で行なった。この強化合宿には大崎電気の今野監督ら男子チーム全員が参加してコーチに当たった。午前9時から12時まで、午後2時から5時まで連日6時間の強行日程。しかも夕食後の午後7時から高嶋団長が大崎電気の五反田寮に出向いて紙上作戦、これには大崎電気の男子チームも参加して熱心な研究会が行なわれた。女子選手1人に男子選手1人がつききりで教える。昼間の練習はFPとGKに分けて行なう。GKには今野、福本、FPには竹野、宮原藤、田口、北村など全選手。いままでにない組織立った強化練習である。大崎電気10人、大洋デパート3人の計13人は疲労を吹き飛ばすファイトで、このハード・トレーニングを続けていた。そこで彼女らの練習ぶりをのぞいて見た。

疲れても食欲2倍

9月28日（火）　駒沢体育館

コーチング・スタッフは女子チームの宮原コーチをはじめ今野男子監督、北村、福本、田口ら。宮原コーチ、北村、田口の三人がコートにはいって細かくコーチする。GKの古谷、川崎には今野、福本が特別コーチ。宮原コーチと北村は主にオフェンス、田口はディフェンスを分業している。3—3の攻防戦から6—6の攻防戦。1リターンパス。2リターンパス。3リターンパス、1フェイント、2フェイント、ロングシュート、ジャンプシュート、両サイド攻撃…など大崎電気の男子のフォーメーションをどんどん消化していく。少しでもミスがあると宮原コーチ、北村からカミナリが落ちる。みんな疲れ切って声が出ない。宮原コーチが「声を出せ！」といってもなかなか出ない。キーパーを入れての攻防戦。GK川崎がミスをする。「どうした。川崎」—いっせいに男子の声。川崎は声が出ない。ゴールネットの後ろには今野、福本がにらんでいる。川崎の目から大粒の涙。歯を食いしばってがんばる。ボールに飛びついて行く。「ボール出しのときは声をかけろ」—これは宮原の声。「鈴木、お前が走らんで勝てると思うか」—これも宮原の声。鈴木は懸命に走る。「なんど言ったらわかるんだ。さっき教えたばかりだぞ。フェイントというのは腰を使うんだ。腰がはいらないでフェイントができるか」—これは北村。女子が必死なら、教える男子も必死だ。宮原コーチ、今野監督は「ヨーロッパ選手は大きい。そのためには男子のフォーメーションを早くマスターしなければだめだ。女子にはきついと思うけれど、こうしなくてはチェコスロバキアに勝てない。選手が憎くてやっているんじゃない。スポーツは勝つためにやるんだ。物見遊山に行くのではない。試合に勝つために行くんだ。女子の練習としてきついかもしれないが、やがては実を結ぶときがくる」という。

やがて待望の12時。ヨーロッパの食事に慣れるため、パン、牛乳、トマトジュースの軽食。キャプテンの宇井がいう。「朝と夜はごはんですが、午前中の猛練習でこのパンがとてもおいしい。みんなものすごい食欲です。夕食のときはびっくりするほど食べます。ふだんの倍は食べているでしょう」。昼食が終わると午後2時までフロアの上にゴロ寝。みんな疲れている。「起きろ」といわれるまでブタのように寝てしまう。だれ一人として起きるものはない。午後2時。みんないっせいに飛び起きる。すぐ柔軟体操、20分後には早くもボールを握って走り回る。大洋デパートの久連松、高山、新保の3選手は「大崎電気のスピードはものすごい。こんどの合宿はとてもきつかったが、いい経験になりました。私たちは大崎電気の選手に負けないように3人で誓っています」という。やがて5時。これで昼間の日程終了。だれ一人として「疲れた」とはいわない。さっと外へ出てマイクロバスへ…。（共同通信社鴛尾武治）

写真はヨーロッパの食事に慣れるためのパン食風景

海外ジャーナル

――ベルギー「体育レビュー」誌から――

（続）

「個人の機能」を100%果たしているか

ベラ・クラトッシュビロバ

技術練習（つづき）

シュート

シュートという言葉は相手のゴールにボールを入れることにより、競技の情勢を変化させようと努める攻撃動作と理解していい。

シュートの成否は

――守備選手の能力、

――シュート位置の状況、

――シュート、フォームの選択、

――シュートの方向と強さ、

により決まる。

その他の要素では攻撃選手の肉体的能力および確信を持ってシュートのチャンスにシュートするという決断をあげねばならない。しかしシュートの成否に対する最も重要な要素は、シュートの方向とその強さであるといえる。シュートの強さは選手の腕によって作られる運動の、エネルギーによって決まる。ジャンプ・シュートの場合は、さらに選手の動きからくる運動のエネルギーが利用できる点が特色である。倒れ込みシュートまたはジャンプ・シュートの場合は、からだの重さが運動のエネルギーに加えられる。最も強力なシュートは長いシュートモーションにより、各筋肉の最大の力を集結することによって得られる。しかし筋肉の力をボールに集める長い動作は、付近に守備選手のいない場合しか可能でない。

そのような状況になることはまれである。シュート選手は攻撃動作をできるだけ短くしようと努める。その結果、強力なシュートをするためには腕の力を高めるようにするか、シュート選手の動きからくる運動のエネルギーを高めるようしなければならない。シュートの方式としてはどのようなものがあるかといえば、シュート位置をもって最も重要な分類規準と考えている。良く使われるシュート位置として次のものがある。

1. ロングシュート
2. ポストンシュート
3. サイドシュート
4. フリースローから。

1．ロングシュート
2．ポストシュート
3．サイドシュート

ロングシュート

――左足または右足に重みをかけて腕を折り、片手（右手が多い）で行なうシュート。

――片手のジャンプシュート、

――右へ倒れ込む右手のシュート

――左へ倒れ込む右手のシュート

――バックシュート、

――アンダーシュート

――フックシュート。

一流選手になるためには「左へ倒れ込む右手のシュート」を完全にマスターすることが必要条件である。このシュートフォームによりチェコスロバキアの選手は現在のハンドボールを豊かなものにした。このフォームを有名にしたのはバクラブ・エレットである。戦術上の観点からは左側に空間があるとき、この左への倒れ込みシュートが使われる。このシュートによれば、シュートの利き腕側（右側）に正しく位置している守備選手のマークをはずすことができる。しかしこの腰を浮かせる倒れ込みシュートは、選手が高度の運動神経を持ち、神経系統と筋肉の働きがよく一致し、肉体的条件が完全であることを要求する。

この腰を浮かせ左へ倒れ込む右手のシュートの実行方法は次の順序でやる。フェイントのあと、右足を相手から75センチのところへ1歩踏み出す。右足は相手守備選手の左足の付近に置く。右足を引き寄せ、左右で重さを支える。このようにして守備選手のマークをはずす。ボールを持った右腕は後頭部からシュートできるよう準備の動作にはいる。右肩を後ろに胴をねじる。最後の場面は胴を左へ回転する動作で始まる。それに少し遅れて右腕で投げる動作が続く。ボールはからだが地面に着く直前に手から離れる。からだの前で曲がっていた右腕を伸ばし、落下の支えとする。あるいは右肩から転げ落ちることにしてもよい。

練習方法

1.このフォームのシュートは組織的な長期の練習が必要である。練習は体育館のマットの上で始める。まず柔軟さの練習と倒れ込み技術のマスターから始める。次に胴を横に曲げる練習をする。じゅうぶん余裕のある横への屈曲に慣れるために、守備選手かまたは何か別の障害物を置くことを忘れてはならない。

2.初めはボールなしでじゅうぶん慣れるよう準備する。そのとき右腕は後頭部に持っていくようにする。次にボールは力を入れない

で投げる。

3.次いで動作の速度を速めて実行する。シュートを打つことを始める。

4.それから良好なシュートができるように練習する。

5.グラウンドに出て砂場または柔らかい芝ふの上でシュートの練習をする。次に競技コートでシュートの技術と速度を完成させる。シュートの強さの練習には限りがない。

6.このあと困難なシュート位置をとるようにして行く。最後に活動している守備選手のそばでシュートするようにしなければならない。

実行上よくある誤り

1.右へ踏み出しすぎて守備選手に近くなる。

2.横への胴の屈曲がじゅうぶんでない。

3.シュートに至る一連の動作がおそすぎる。

4.倒れ込みが激しすぎる。

バックシュート

バックシュートは守備選手が接近しているとき、その手の下から打つのに適したシュートフォームである。守備選手が自己の右側に空いた角度を残している場合にしか活用できない。個々の状況に適応しない型にはまったバックシュートの利用は効果がない。

実行方法

ボールを受け取ったあと、ボールの持ち方を前腕をクロスした持ち方に変える。ボールを裏返した左手の手のひらに置き、右手がボールの左半分を持つ。右前腕に対して指でボールを押しつけようとする。左手の役割りは回転動作の開始ーシュートーの開始までボールを支えることである。右手の役割りはボールの進路をコントロールし、ボールに速度を与え、飛んでいくボールの方向を決めることである。ボールの持ち方を変えると同時に、右足を引きつける。左足の裏の前半を軸として回転する。右足の引きつけは最も迅速でなければならない。

回転のさい、右腕はからだの回転より少し遅れて回転する。回転が始まるとすぐ左手をボールから離し、以後単独で動きにしたがって行く。右腕の速度を増し、ボールを投げる。シュートのあと、右腕の動きはからだの回転動作を完成させるよう働く。すなわち選手はゴールに対面する位置に戻る。

練習方法

1.バックシュートのためのボールの持ち方を練習する。

2.パスを受け、左足を軸として回転する練習をする。そのとき、ボールは自由にある方向へ転がり落としてよい。

3.右腕の動作の速度を高める練習をする。そのとき、ゴールはからにしておく。

4.積極的に活動する守備選手を入れて練習する。

実行上の誤り

1.ボールの持ち方を変えるさい、右手をボールの上から持ってきて、腕をクロスする方法をとらないで後ろからクロスする（右腕が左腕の下になる）のは誤りである。

2.右足を引きつける力がたりないと、回転に必要な状況にならない。

3.回転する軸となる足に、じゅうぶんな安定性がないのはいけない。

4.ボールを長く持ちすぎ、ゴールからはずれてしまうのはよくない。

サイドのシュート

サイド選手はシュートするのに最も適さない位置に置かれている。非常に困難な角度からのシュートは、ゴールキーパーが正しく位置についていると成功のチャンスは少ない。しかし同チーム選手が相手選手を中央に引きつけることで、サイド選手の任務は非常に容易になる。また前へ向かってのワンバウンド・シュートを行なうか、または腰を浮かせた横への倒れ込みシュートを使うことにより、サイド選手はシュートの角度をよくすることができる。さらに近い方のゴールポストのそばに正しく位置しているゴールキーパーを、フェイントによりあざむくよう努めねばならぬ。

右サイド選手に最も適したシュートのフォーム

1.ジャンプシュート。

2.ボールをひねり、バウンドさせるシュート。

3.腰を浮かせた左への倒れ込みシュート。

4.上から下へ向けてのたたき込みシュート。

左サイド選手に適したフォーム

1.右へ倒れ込む腰からのシュート。

2.ジャンプシュート。

3.上から下へのたたき込みシュート。

ひねってバウンドさせるシュートは、ゴールキーパーがゴールポストに非常に近く位置しているときに使われる。バウンドする前のシュートの最初の方向はゴールの外に向かっているが、ひねりによって進路が変わってゴールの中へはいる。

実行方法

このひねりバウンドシュートはエリア内へのジャンプにより行なわれる。要領は肩からのシュートと同じであるが、ただ胴が少し右へ傾き、ボールが頭の上の方でコントロールされる。右手を少し右

の方へ向けてボールを持ち、ジャンプにはいる。右前腕と手を左の方へ向けていき、最後にはボールの底にさわっているようにする。この動作によりボールに必要な回転を与えることになる。ボールはキーパーの守備範囲の外に落ち、バウンドのあと、キーパーの後ろからゴールの中へはいる。

練習方法

1.まずひねりをつけたバウンドパスの練習をする。これにより腕と手との回転によるひねりの要領をマスターする。次にこのパスをジャンプして行なう。

2.エリアラインからひねったシュートを行なう練習をする。この場合バウンドさせる場所を明確に示す。（たとえば石灰をまくとか…）。これは経験のない選手がボールを投げつける場所を早く知るためである。

3.練習の最後の過程では、3歩のあとのシュート、ドリブルのあと、またはパスを受けてのシュートをそれぞれ練習する。初め近い方のゴールポストのそばに形だけのゴールキーパーが立つ。次にじゅうぶん活動する守備選手とゴールキーパーを入れて練習する。

最近腰を浮かせ左へ倒れ込み、右手で打つシュートが活用されるようになった。いままでの右手でシュートするサイド選手のポジションが変わってきた。サイド選手はゴールラインからエリアラインに向かって進入してくる。中央へ向かう進路に守備選手が立つ。守備選手が予期しない方法で、よいシュートアングル（角度）を作るという方法である。

実行方法

右サイド選手は突然エリアラインに向かって斜めにエリアラインに達する。倒れ込みかジャンプにより左へ傾く。ボールを持った右手を頭の上に構える。反対側ゴールポストに向けてシュートする。ゴールキーパーがすでにポストの中央へ移動している場合は、近い方のポストへシュートする。

基礎練習例

1.二つの定位置の中間前方にボールくばり、選手が位置する。選手はボールくばり選手とパスを交わしてシュートする。シュート方向はゴールキーパーの合い図にしたがう。手を下に―ゴール上半分へシュート。手を上に―下半分へシュート。

2.定位置左側にボールくばり、選手が位置する。選手はボールくばり選手にパスしフリースローラインの方へ進入する。パスを戻してもらって布の的にシュートする。またはゴールの後方にシュート場所を示す選手を立たせてもよい。

3.選手は選手とパスを繰り返しながら進入し、守備選手の頭上からシュートする。5本のシュートのあと交代し、3～5回同様練習を繰り返す。同様に選手2人でパスしながら進入し、1人の守備選手を抜いてエリアラインからシュートする。またサイドからのシュートも行なう。

4.選手はサイド選手にパス。サイド選手は中央へ向かう。フェイントでマークをはずしてからエリアラインまで進入し、シュートする。シュートはゴールキーパーの合い図にしたがったシュートをする。キーパーがかがんだときに天井へのシュート。足をあげたときにバウンドシュート。前進したときに弓形のロブシュート。

5.5個のボールをグラウンドに散らしておく。1個ずつ拾い上げ、シュートすることを続けて行なう。

6.後方で選手2人がパスを交わす。ポスト選手とそのマーク選手がエリアライン付近で移動する。突然後方でパスをしていた選手の1人がポスト選手にあまり正確でないパスを送る。ポスト選手はそれを受けてシュートする。

7.ゴールポストのそばに位置した選手の足もとにボールを数個用意する。ポスト選手数人がエリアラインに準備する。ゴールポストのそばの選手がバウンドパスを出す。ポスト選手がそれをゴールへたたき込む。

競技練習例

1.左の浮いた位置の選手は右の浮いた位置の選手にパス。この選手は前方のポスト選手に向かって進入する。守備選手が出てくるとポスト選手にパス。守備選手がアタックしてこなければ自分がシュート。

2.浮いた位置の選手2人はクロスする。ポスト選手は浮いた位置の選手の進行方向と逆の方向に守備選手を引きつける。浮いた位置の選手は守備選手の穴からシュート。

3.右の浮いた位置の選手は右サイド選手にパス。右サイド選手は中央部へドリブルして進み、自分の相手の守備選手を引きつける。パスした選手はクロスにスタート。パスを受ける。パスをしたサイド選手はエリアにはいってくる選手のブロック（防壁）となる。パスした選手がシュート。

攻撃動作の結論

選手各人の攻撃動作が重要であることについてなんの疑いもはさむ余地がない。それがいつもゲームの基本的な切り札となる。選手個人のプレーの多様性と水準が高まるにしたがって、チーム全体としての攻撃システムは豊かになる。コンビネーションの訓練も容易になる。ハンドボールでは、ある選手1人が攻撃する力がなくなったとき、チーム全体はその攻撃力を失ってしまう。選手各人は自分の攻撃動作の質の水準を絶えず高めるよう努力しなければならない。そうすることによって相手を驚かせ、打ち勝つことができる。

個人の守備動作

守備活動は選手の間では人気がない。しかし試練を経た守備はやはり攻撃活動と同様に重要である。それだから守備をよくするための練習にも同様な努力が必要である。守備活動の終局の目的は相手に得点させないことである。攻撃側と守備側との争いの場で、守備選手はコート上の自分の位置およびチームの守備システムにしたがって自分の動作を選択する。一流選手の守備動作の内容となるものは次のとおりである。

（1）ボールを持った攻撃選手のマーク
（2）ボールを持たない攻撃選手のマーク
（3）相手選手の自由な進行の阻止
（4）ボールカット
（5）ゴールキーパーの守備動作

守備選手の動作については新人訓練の章で詳細に述べるので（次号掲載予定）ここでは省略する。しかし一流選手とは攻撃動作と同時に守備動作についても完成されているものでなければならない。完全な選手とは攻撃能力と守備能力を同時に持っている。ここではゴールキーパーの動作について特に触れておく。

ゴールキーパー

ゴールキーパーの活動の成否はシュートに対して、正しい位置と姿勢を取ったかどうかにかかっている。得点となるシュートの大部分はゴールサーパーが動作を起こすときに、不適当な位置に立っていたことによるものが多い。

基本的な位置と姿勢

ゴールキーパーの基本的な位置はゴールの中央、またはシュート角度の2等分線上に位置することである。シュート角度とはボールとゴールポストを結ぶ2本の線と

理解してよい。ゴールキーパーは歩幅を少なくとも30㎝開いて、ゴールラインの前10㎝から50㎝に位置する。ひざを軽く曲げ、体重を両足に均等に分けて少し前方にかける。胴は少し前に傾け、頭は真直に起こす。目はボールを追う。腕はひじを軽く曲げ、手は腕の高さに持ってくる。姿勢は堅くならず、自然でなければならない。ゲームの間、ゴールキーパーはボールの位置に応じて移動する。当初のゴールの中央の位置から横にボールに近い方へ移動する。その移動の位置はゆるやかな弓形になる。またどの位置にあってもキーパーは自己の肩の線をボールとキーパーを結ぶ線に対して直角におき、ボールに向き合っていなければならない。

ゴールキーパーが自分の後方にあるゴールに対して、どういう位置にあるかを絶えず正確に知っていることが重要である。その最もよい方法はゴールポストに手でさわることにより、ポストとの関連で位置を知る方法である。この方法は決して迷信や神経質を表わすものではない。ボールから視線を離すことなしに自分の正しい位置を知るものである。

高いシュートの守備

ゴールの上部1/3の範囲への速度がなく、かつキーパーの手の届くところへのシュートを取ることは最もやさしく問題ない。もっとも速度のある高い部分へのシュートの場合はゴールラインの後ろへはね返すか、コートの中へはね返す。しかし最も有利なのはキーパーの前へボールをたたき落とし、バウンドさせて取る方法である。この方法でシュートの力をそぐとともに速攻を開始することができる。ゴールの高いコーナーへのシュートは片手ではずす。左コーナーへのシュートの場合、左手の迅速な動作と左足つま先での立ち上がりでコーナーを守る。右足は地面を離れて自由な状態にある。左腕はひじを少し曲げ、指を開き手のひらをボールに向ける。右腕は自由に曲げる。もしこの動作が迅速に実行され、腕をできるだけ遠くへ伸ばそうとする努力をやるならば横へのジャンプは少しですみ、しばしば起こる墜落をさけることができる。右の高いコーナーの守備も全くこの逆の方法で行なわれる。

低いシュートの守備

地上数センチへのシュート、または地面へのシュートは足の助けを借りてはずす。この場合できるだけ大きいステップを側面へ踏み出す。ひざを伸ばし、つま先をポストの方向に上向きにする。からだは足を伸ばした方向に向ける。シュートがポスト近くの場合、すべり出の姿勢またはほぼハードルジャンプの姿勢をとる。

中間の高さへのシュートの守備

中間の高さへのシュートの守備はボールの高さとその高さに応じた守備のフォームにより、さらに二つに細分することができる。

（a）第1のグループに属するのは、ボールが地上30センチから腰の高さの間にくるものである。ゴールキーパーは足をボールの高さに上げる。一方腕を下げる動作を迅速に行なう。腕はひじを伸ばし、手のひらはボールの方へ向ける。前腕はひざの上にあり、手は足の脛骨の上になる。片方の足はその内側で重さを支える。からだは前へ曲げ、片方の手はいつも高く上げる。

（b）第2のグループに属するのはボールが腰と胸の高さの間にくるものである。この場合は腕だけでボールを防ぐ。キーパーの右側へのシュートには右手を用いる。腕はボールのくる高さに構え、そのどの部分でもボールを止める。前腕は手のひらを前向きにし、親指と他の指は開く。ひじは伸ばし切らず、筋肉は縮めておく。開いた足の位置はそのままにしておく。しかし体重はボール側

の足に移ることが多い。

サイドからのシュートの守備

この場合のキーパーの姿勢は中央部へのシュートに対する姿勢といちじるしく相違する。右サイドからのシュートを守るため、キーパーは左わき腹をポストにつけて位置し、ボールの進路と直角に立つようにする。足は引きつけ、ボールがその間から侵入しないようにする。胴は真直に立て、左腕を高く伸ばしてポストに触れる。右腕は軽く曲げて、中途の高さにかかげる。両腕をともに高く上げるのはシュート角度が極端にせまい場合である。この守備フォームの重要な点はこわがらないことである。

後方になるポストへの向けての低いシュートは横へ1歩踏み出す足で防ぐ。後方のポストへ向けての高いシュートは腕で防ぐ。そのとき片方の腕は近いポストに向かって伸ばしたままである。サイドからのシュートで多いのは、ひねりバウンドシュートである。このむずかしいシュートはバウンドのとき、足を迅速に側面または前方へ出し足で防ぐことができる。そうできなかったときはバウンドのあと横へ踏み出し、足と手で防ぐ。

	攻　　撃	守　　備
システム	Ⅰ展開攻撃 1. 一線攻撃 2. 浮いた選手1人システム 3. ポスト選手1人システム 4. ポスト選手2人システム 5. ポスト選手1人浮いた選手1人システム 6. 即興システム Ⅱ速攻反撃 1. サイド選手 2. 前進選手 3. サイド選手1人前進選手1人	Ⅰゾーンディフェンス0：6 1：5 2：4 3：3 Ⅱ複合ディフェンス　1＋5 2＋4 5＋1 Ⅲマンツーマン・ディフェンス —センターラインから —コート全面における
コンビネーション	Ⅰコンビネーション —準備のコンビネーション —シュートのコンビネーション Ⅲ合い図 —9メートルスローのための —コーナースローのための	1. 相手の交換 2. 防壁 3. 割り込み 4. グループでの受け止め 5. 人数の多い相手に対する守備選手の協調 6. 守備選手とゴールキーパーの協力
個人の動作	1. ボールを持たない選手の行なうマークはずし 2. パスとキャッチ 3. ボールを持つ選手のマークはずし 4. シュート 5. ゴールキーパーの攻撃活動	1. ボールを持つ選手のマーク 2. ボールを持たない選手のマーク 3. 進路の受け止め 4. ボールカット 5. 支え 6. ゴールキーパーの守備活動

練習方法

ゴールキーパーのプレーはチームにとって非常に重要なものである。したがってゴールキーパーの練習には大いに考えなければならない。その練習の目的はキーパーの肉体的能力を向上させ、その技術および戦術知識を完全なものとすること。さらに競技全般にわたる理論、守備と攻撃の競技知識をマスターさせることにある。毎週少なくとも1回キーパーを個人的に訓練する。キーパー2人と場合によっては選手数人がこの練習に参加する。キーパー2人の練習時間には約1時間を当てる。基礎練習の時期には特別な肉体的能力を準備する練習を行なう。練習としては単に速力、しなやかさ、力量を高めるためだけのものでなく、肉体的能力とキーパーの技術を同時に完成させるような複合された練習を行なう。

技術—戦術練習の時期に最も重要なのは、位置と姿勢を完成し、状況判断の迅速性と早い腕と脚のプレーを得ることである。ゴールキーパーの個人の特性が原則として基礎となるよう注意を払わねばならない。7メートルスローの守備練習は練習のつど行なう。最初は選手全員が7メートルスローを行ない、次に7メートルスローに当たる選手だけが行なう。

練習例

（1） キーパーは壁に面して1メートルから2メートルの距離に位置する。コーチは壁面のいろいろな場所にボールを投げつける。キーパーははね返ってくるボールをカットするよう努める。キーパーと壁との距離およびシュートの強さはキーパーの役割りがだんだんむずかしくなるよう変化させる。

（2） キーパーはゴール内のどちらかに寄った位置につく。コーチは遠い方のポストに向けてボールを投げる。キーパーはジャンプ、すべり込みをしてボールを防ぐ。直ちに起き上がり、次のシュートを防ぐ。

（3） 選手数人がフリースローラインに沿って散らばって位置する。パスを行ない、フェイントシュートを行なう。キーパーはボールの移動にしたがって位置と姿勢を変える。予期しないシュートでキーパーを奇襲するよう努める。

（4） 左右両サイド定位置にボールを数個ずつ持った選手を置く。交互にシュートする。キーパーは一方のポストから他方のポストへ迅速に移動してボールをカットする。

（5） 両サイド、エリアライン中央、フリースローライン後方に選手4人を配置する。各選手はボールを持ち、番号をつける。コーチが番号を呼ぶ。呼ばれた選手がシュートする。（了）

もてるポロシャツ
もちたいポロシャツ
レナウンポロシャツ
ボンネル
RENOWN
レナウン
レナウン工業株式会社
レナウン商事株式会社
東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・広島・福岡

楽書帖

ボルフ夫人はハンドボール選手

鴛尾武治

○…10月のある土曜日の午後、私にとってはいそがしい一日。デスクの上の電話が〝リリーン〟と鳴る。受話機をはずす。「ハロー、ハロー。ミスター・オシオいますか」。どこかで聞いた声。「ボルフです」とあざやかな日本語。私は思わず「ドーブリデン、ドーブリデン」—これはチェコスロバキア語で〝こんにちは〟。ボルフさんというのはチェコスロバキア通信社の東京特派員で在日二年。ものすごい日本ファン。私は「ヤク セ バム ダリー?」—〝お元気ですか〟。「私とても元気です」—これはボルフさん。このボルフさんから注文がきた。「10月に日本の女子チームがプラハで世界選手権大会の試合をやるのだが、日本のメンバーを教えてくれないか。実はプラハの本社からテレタイプでそう言ってきた。お願いします」。

○…チェコスロバキア通信社には昨年3月の男子世界選手権大会でずいぶんお世話になった。本誌17号(39年7月発行)の世界選手権大会の写真は全部チェコスロバキア通信社が日本チームに寄贈してくれたもの。そのご恩返しの意味で、ポンと胸をたたいて「あす午後届けます」と返事。さっそく手持ちの資料をタイプして翌日明治神宮表参道の近くにあるチェコスロバキア通信社東京支局へ届けた。「これはたいへんりっぱな資料です。チェコスロバキアの人は喜びます。さっそくきょうテレタイプで送信します」と感謝された。私は昨年2月ヨーロッパへ行く前にボルフさんと会い、いろいろとチェコスロバキアのこと聞いた。それいらいの友だち。昨年東京オリンピックのとき、プラハの本社から運動部長のブレシュ氏が特派員として日本へきた。私たちはこの人にもお世話になったので、そのとき高嶋理事長にお願いしてオリンピック後に夕食会を開いてもらった。

○…ボルフさんには2週間に1度ぐらい会う。私が遊びに行くと、チェコスロバキアのスポーツ誌を必ず出してくる。そして「ハンドボールの写真が出ているからプレゼントする」といって私にこの雑誌をくれる。また「家内はハンドボール選手なんですよ。1946年から10年ぐらいやっていました。むかしは優秀だったんですよ。いいからだをしていましたが、いまはふとっているのでダメね」と笑い出す。ボルフ夫人に「近いうちにチェコスロバキアの女子選手のことを話してください」とたのんだら、「いまのハンドボールはスピードがあるので、私たちの時代とは全く違う」という。私は「来年4月にチェコスロバキアの男女チームが日本にくる予定です」と言ったら、ボルフ夫妻は大喜び。

時評

やがては王座への道

手回しよい長期計画

9月下旬の某紙のスポーツ欄に次のような記事が出ていた。

『ハンドボール界が珍しく長期計画をたてた。というのは1967年1月にスウェーデンで開かれる第6回男子7人制世界ハンドボール選手権大会へ準備である。8月に国際ハンドボール連盟から「日本は無条件出場と決まった」と連絡があった。参加16チームでシードされたのは前回優勝のルーマニア、地元のスウェーデン、それに日本の3チーム。この朗報にすぐ成案を練り、このほどでき上がったもの。

こんなに早く案を作ったのは大きな進歩といっていい。昨年の第5回大会でノルウエーを破った自信が大きくものをいい、「次回ではベスト8をねらえ」と意見がまとまった。いつもこのように先手先手と打って出れば、必ずよい結果が出てくるものだ。この案はことし12月の全日本総合室内選手権大会で優秀選手を選出し、強化合宿させてナショナル・チームを編成する。4月にチェコスロバキア・ナショナルチームを日本に招いて力だめしをやりながら、同時にチェコスロバキアのコーチから手ほどきを受けるという案である。9月にはソ連、ルーマニア遠征の計画もあり、かなり意欲的である。

〝アジアから世界選手権に参加するたった一つのチームだから、大いにがんばらなきゃ……〟という考えを首脳部の一人々が持ったのは大いにほめていい。これからもグッドアイデア?を連続ヒットしてもらいたい。それがやがては世界の王座獲得への道になる。』

この長期計画は確かに手回しがよかった。妙手であり、見事なホームランでもある。ここで筆者はこの名プランを無駄にすることなく、完全にやりとげてもらいたいと願っている。12月の全日本総合室内選手権大会で候補選手を選出するのもいいが、8月の全日本総合選手権大会の資料もじゅうぶん検討すべきではないかと思う。たったひとつの大会の資料だけでは物たりない気がするからだ。選手には〝調子に波〟があるので、できるだけ多くの資料を持ち寄ってもらいたい。もうひとつ大事なことがある。それはせっかく候補選手に選ばれても経済的な問題、勤務先のつごう、学生の場合なら就職問題がからんでくる。それに年間最優秀選手をそのまま候補選手にふり向けるのも考えもの。これらをうまくコントロールしてほしい。このためには日本協会が具体案の作成を急いで万全を期してもらいたい。

少なくとも来年の夏までには日本ナショナル・チームができることを祈るのは筆者ばかりではあるまい。

ハンドボールと私

——兵庫県立尼崎高校の歴史——

中松正昭
(兵庫県立尼崎高校監督)

このほど兵庫県立尼崎高校の中松正昭監督から本誌編集部あてに同校機関誌「クラブ・クラブ」を送ってきた。この機関誌には同校ハンドボール部のことが掲載されていた。昨年発行のものらしく、上田市で開かれたインターハイのことが出ている。そこで本誌はこれを掲載することにした。

◇　◇　◇　◇

信州上田城の外苑グラウンドにさし込む夏の陽ざしは、その日、特にきびしいものがあった。全国から集まった百をこえる男女高校チームの入場式を見ようと集まった多くの観客は、その暑さにあえいでいるようであった。たとえば開会式につきものの五色の風船が空に舞い上がるという計画がきびしい暑さにたたられてか、すっかりしぼんでしまって上がらなかった。このことからでも察することができるようであった。

だが私——そして小島先生も同じであったに違いない——はそんな暑さも大して気にならないほど緊張して、その瞬間を待っていた。正確にいうならば、昭和39年8月2日午前9時50分、第15回ハンドボール・インターハイ開会式の席上、私たち「県立尼崎高校ハンドボール部」は全国優秀校として他の十数校とともに栄えある表彰を受けたのである。創立いらいの13年の苦労があれこれと思い出されてくるころ、式は終わった。静かなグラウンドは一変して戦いの前の興奮があたりの空気を揺るがせはじめるのであった。

×　×　×

本校にハンドボールがもたらされたのは、小島正男先生の着任のときに始まる。小島先生は日体と立命大を通じて学生ハンドボール界の第一線で活躍、全日本学生軍に登録されるほどのベテラン。26年秋に着任されるとすぐに、同好会を結成、ハンドボールなるものの普及をはかられたのであった。当時、私は健康を害し、好きなスポーツはもっぱら「見学中」というところ。ハンドボールというものは見るのも初めてであった。現在のハンドボールとは少々ルールが違っていてコートの広さはサッカーと同じ。人員も11人で戦うというルールであったので、練習もフォワード、バック、キーパーと三部に分かれてのもの。そして小島先生があちこちと走り回って指導しておられるのがひどく印象的だったのを覚えている。あれはいつごろであったか、多分27年2月ではなかったと思う。数人の女性に囲まれて私は猛烈に口説かれていた。断わっても断わっても、毎日毎日私を口説きに来る女性が現われたのである。独身の私は……、いや、関係ない。彼女たちはそのハンドボール同好会のメンパー。4月からクラブに昇格させてもらい、活動をもっと本格的なものにしたいので、小島先生がコーチャー、私が部長という体制をこしらえたという結論を持って来ての口説きなのである。

私は、とうとう彼女らの口説きに負けて、部長になることを承知した。えらいことになったぞ!……と思った。というのは、とにかく見ていると、とても熱心なのだ。みんなが熱心にやっているのに、手をこまねいて見ていることはできない。健康を損なうのじゃないか? と不安はつきまとったが、えい、引き受けたからにはやろう。……というわけで、陽気の温かくなったころから、私も久しぶりにトレパンにはきかえてグラウンドに出ることになった。(発病してから2年目ぐらいであったろうか)

お恥ずかしい話だが、ハンドボールのルールから教えてもらわなばならない部長であった。こんなことがあった。どうも高いボールを受けるのがへたなので「こんなふうにしたらええやないか」と一計をさずけると、みんな不思議そうな顔をして私を見る。「なんだ」とたずねてみると、「そんなふうに一度止めて、落ちてくるボールを途中で受けたら反則と違いますか」という。こりゃいかんと、小島先生に聞きに走る……など全くお話にならない部長であった。

初めて公式試合にでたのは27年6月のインターハイ予選。どうも県のレベルが高すぎるのか全然歯が立たない。当時は明石高校が強かったのだが、どことやっても負けるのである。連戦連敗の時期がしばらく続く。今度こそはと張り切って到着する明石駅を、夕方悄然と帰ってこなければならない寂しさ。いやが上にも私たちの闘志を燃やさずにはおかなかった。「オレについて来い」となんどか言い切ったものだった。そしてその寂しい図は28年11月に初めて書き改めることができた。明南高校、佐用高校、明石高校といずれも僅少差で破って、秋の陽の暮れ落ちんとするころに渡された優勝杯の重さが今も手に伝わってくるようである。この日の感激は当時の部員の全員が今でも語っている。

県尼ハンドボール部の全盛期は30年から始まる。同好会として発足していらい足かけ4年目の初夏。インターハイ予選が、明石グラウンドで行なわれた。決勝戦では必勝を期す明石高校に7—0で完勝して、ついに兵庫代表としての栄冠の獲得に成功した

のである。しかもこの試合は、ハンドボール球史にもちょっと例がなかろうと思われるパーフェクトゲームであった。つまり明石高校にシュートを1本もさせなかった。正確にいえばフルバックもボールを手を触れることなく、試合が終わるという見事な防御ぶりで得た優勝であった。そして、それが初めて上がる全国大会優勝への階段であった。こんなふうにして書いてゆくと、紙数はどこまで延びるかわからないのでやめよう。そして、その階段がいかにけわしく、いかに長いかを語ることにしよう。

30年の第6回インターハイに出場していらい今日まで、兵庫県ではわずかに37年秋甲子園学院に1敗しただけでずっと勝ちつづけ、(6)東京、(7)藤井寺、(8)松山、(9)北海道、(10)仙台、(11)倉敷、(12)富山、(13)小倉、(14)富士吉田、(15)長野（数字は回数）と10年連続インターハイ出場。近畿代表として国体に出場する栄誉も、31年兵庫、33年富山、34年東京、35年熊本、36年秋田、37年岡山、39年新潟と7回を数え、卒業生を中心として作られる「尼崎クラブ」も31年兵庫、32年静岡、33年富山、34年東京と4回出場の栄を誇っている。

近畿に敵なしとスポーツ新聞に書きたてられたころ、全国優勝はたいしてむずかしいことではなかったと思われたのに、ついに1度もその感激を味わえなかった。監督としては断腸の思いで語らねばならない。たとえば第7回大会の準決勝戦で不運な1点差で愛知の稲沢高に敗れ、第3位に甘んじねばならなかったこと。富山国体で、ポイントゲッターが試合中に骨折するという浮き目にあいながら、茨城の水海道二高に善戦、延長のすえ結局1点差に泣いたこと。東京国体でその水海道に完勝しながら、宮城県涌谷高校と泥んこ試合を演じ、第二延長のすえ抽選で負けた時のこと。いや、それだけではない。負けた試合のほとんどが僅少差。そしてその相手のいずれもが優勝校あるいは準優勝校となっているのを見るとき、私たちに欠けていたものはいったい何であったかと反省させられるのである。

大松―小島のコンビでニチボーは成功し、中松―小島のコンビで尼崎は足踏み。大と中の違いだなどと語呂合わせの段階ではない。尼崎に欠けていたものは何であったか。練習不足か、根性の不足か、技術の未熟か、経験の不足か、作戦の失敗か、体力の過小か……そのいずれを見ても、みな当たっているともいえるし、当たっていないともいえる。たとえば練習ぶりはどうだ。小島先生の経験に基づく綿密な年間計画をもとに基礎体力の消耗とにらみ合わせての練習は、決して少なかったとは思わない。「継続は力なり」ということばを一人一人が信じ、「美と和」がすべての基盤だと確信。歯をくいしばって汗と涙を美しく流しながら練習をやりとげ、卒業していった歴代の部員のだれ一人として悔いを残しておらない数々の証拠がある。だが私たちのなした努力が最高のものだとどうしていい得よう。合宿で夜の2時からの練習をつづけてみてこれが限界だと思っていたら、ニチボーなどほとんど毎日2時から、3時、4時に及ぶこともあったというではないか。

では根性の不足か？一概にそれを肯定できぬだけの積み重ねの毎日を送ったと思う。医者に練習停止を申し渡されて少しずつ補ってついに病を克服した者もいる。入部したときより成績が下がれば練習停止になるから、その面でも真剣な努力をみんな払っていた。クラスで一番二番を争うようになった選手もいる。泣きながら――ほんとうに号泣しながら、ボールを追っていた子もいる。そしてみんな、なつかしく美しく、尊い青春の思い出としていまも私に語りかけてくれる。だが私たちの根性が最高絶対のものであったとどうして言い得よ

ことし5月9日同校卒業生による尼崎クラブ総会のときのもの

う。体操の小野が脱臼に悩みながら演技の数々を見て感激しなかった若人は、もはや老人としての特権を失ったも同然といわねばなるまい。

「こんなことをしてなんになるんだろう」という最も恐ろしく寂しい言葉が私を悩ましたことももちろんある。私にあったのと同様に、歴代の部員のほとんど全部が一度ならずその壁にぶつかったと思う。ぶつかってもがき、悩み、苦しみ、そしてむなしく退部していったものもいた。大半のものがそれを乗り越え、健康、家事手伝、勉強などの苦しい条件をも克服し、体育功労賞を授与されて巣立っていった。そして一様に、教室では得られなかった尊い体験をなし得たことに感激しつつ、大人の世界へ去っていったのだった。

一体、私たちに欠けていたものは何であったのか。私はここでそれをこれ以上分析しようと思わない。ただこれは決してひとりハンドボール部だけのことではないのではないかといいたいのだが、どうだろう。ひところはやった歌の文句ではないが〝何が何でも勝たねばならぬ〟という歌はきびしい勝負の世界に生きているすべての人々が、いやでもおうでも味わねばならぬ言葉であり、一つの真理だということを指摘しておきたいのだ。

優秀チームの表彰を受けた私たちのクラブはさらに前進のための努力をつづけるだろう。私はただ過去の部員の一人一人のりっぱさを、小島先生とともに心からたたえてやりたいと思う。そして願わくば「美と和」をモットーとしてはげむハンドボール部に惜しみない祝福と励ましを与えてやってほしいと思うだけである。

球界パトロール
栄光に包まれた近藤3兄弟

日本ハンドボール界の歴史もまもなく30年。インター・ハイでは親子二代にわたる選手が見られるようになったり、静岡の久保田夫妻といった異色のペアも現われている。ここにまた、栄光の道を進む3兄弟という珍しいトリオが話題になっている。

話題の主は近藤金博（30）、信行（21）、秀和（17）。金博氏は桜台高（愛知）から芝浦工大に進み、芝浦工大黄金時代の基礎を築いた名FW。日本が初参加した昭和36年の第4回世界7人制選手権の主将をつとめた人。現在は女子実業団東京重機の監督だ。信行君は金博氏同様に桜台高から芝浦工大に進み、現在まだ3年生だが、早くも学生界を代表するプレーヤーになっている。秀和君は今夏のインターハイで話題をまいた名城大付高（愛知）の3年生で、同校準優勝に大きな力となった。

末弟　秀和君

ハンドボール界には以前から兄弟選手が多く、戦前の林兄弟（兄＝慶大、弟＝法大）や、最近では慶大の中川兄弟。3兄弟というのはまったく珍しい。しかも3人がそろって栄光の道を歩んでいるのは所属チームの強さという幸運もあるが、なみなみならぬ技術の持ち主という証拠。近藤家には男ばかり5人の兄弟がいる。あとの3人は柔道を少しやる程度でハンドボールに関係ない。実のところ金博、信行両君についてはかなり知られていたが、秀和君のことは今夏の大会でにわかにスポットが当てられたもの。3人を知る桜台高の稲石監督は『金博君がすべての面で一番上だが、あとのふたりも金博君をしのぐ素質はじゅうぶんにある』と話している。

秀和君は『やはり兄たちの影響でハンドボールを始めた』という。しかしその技術などになると、特に教えてもらったことはないそうだ。『3兄弟というのは珍しいネ』というと『その話は苦手だあァ』と笑った。『君も芝浦工大志望？』と聞くと『信行兄がお前なんか来るなといっている』という。もちろんこれは冗談だろう。秀和君をたずねた日の夕方、金博君がチームを率いて大分（全日本総合）に向かうとかで、名古屋駅に見送りに行く予定だという。『準優勝したときは兄さんたちは喜んでくれただろう？』と言ったら『何も言ってくれなかった。兄さんたちは何回も全国優勝しているからネ』との返事。

なるほど兄さんたちに比べて秀和君に欠けたものがあるとすれば、それは〝優勝の経験〟だ。近いうちにきっと優勝を味あうことができるだろう。なぜなら秀和君は兄さんたちに負けないほどハンドボールが好きで、研究熱心だからだ。

球界パトロール
兄弟・姉妹選手3組……

近藤3兄弟に次いで、こんどは兄弟、姉妹を拾ってみた。山梨の清水・手塚姉妹、大分の亀谷兄弟、岐阜の近藤兄弟がそれ。

× × ×

清水富美子先生は17年間山梨高校監督を勤め、インターハイに監督として12回出場。日体大在学中はハンドボール選手として活躍。卒業後郷里山梨からオール山梨チームの選手として第2回全日本総合選手権に優勝する輝かしい記録を持っている。理（おさむ）選手は中学時代は陸上競技選手として活躍し、高校入学いらいハンドボール選手として、その走力をチャンスメーカとして生かしチームのリードマンである。家庭は父親亘氏のスポーツに対する愛好心と指導力をもって、一家7人が山梨県国体選手として活躍しているスポーツ一家。富美子先生の夫君の正先生は高体連ハンドボール部常任委員とし、また高校大会審判員。

姉・清水富美子（山梨高監督、旧姓手塚）
妹・手塚理（山梨高選手）
義兄清水正

× × ×

兄・近藤　寛（加納高3年）

弟・近藤隆夫（加納高2年）

岐阜市伊奈波中学に入学してからハンドボールを始め、県中学大会に優勝した。両親がスポーツにとても理解があり、この兄弟はプレーも学業も優秀とか。「不撓不屈の精神をハンドボールで養成せよ」との両親のきびしい命令。この兄弟は必死である。加納高に入学するとすぐレギュラーとして活躍、連続インターハイに出場。そのプレーは将来性がある。やや体力的に未熟な点はあるが、すばらしいがんばり屋。兄の寛君はチームの主将

兄・亀谷長秀（大分商高監督）

弟・亀谷　正（大分商高選手）

亀谷長秀先生は福岡県出身。昭和38年日体大を卒業、6月に大分商高に勤務。39年4月にハンドボール部を新設した。先生のハードトレーニングは大分球界では有名。またすばらしい指導力は実に見事なもの。結成いらいわずか1年で昭和40年度全九州高校選手権大会に優勝した。弟の正君は1ｍ74センチ。福岡のスポーツで有名な春日中学を卒業、兄とハンドボールをやるために39年4月に大分商高に入学した。現在2年生。ことしのインターハイに初出場し、2回戦に第3シードの下関中央工高と対戦、大接戦のすえタイムアップ寸前に見事なブロンジョンシュートで味方を勝利にもたらした。

球界パトロール
夜に乗ったリーグ戦
愛　知

愛知実業団連盟は今秋のリーグ戦を名古屋市瑞穂区のブラザー工業球技場を借りて全試合ナイトゲームで行なった。ナイトゲームといっても、中心光度百五十ルックス（照明灯12基）という簡単なもの。水銀灯光線のかろやかな光に照らし出され、いかにも〝秋〟のリーグ戦らしいそう快さ。交通量の激しい国道沿いという地の利（？）に通勤帰りのサラリーマンやオフィスガールが足を止めて観戦する姿や、トラックの運転台から若い運ちゃんが『よォ張り切ってるネ』とヤジとも声援ともつかぬ声をかけて走り去って行く。これまでの試合場の〝常識〟も破ったなごやかなムード。

炎天下の屋外やむし暑い体育館を避け、しかも勤務時間を終わったあとだけに選手たちも会心のプレーの連続だ。実業団の試合といえば土曜か日曜日が中心だが、このリーグは日曜に試合がない。心にくい気のくばりようである。コートサイドも初めのうちは選手関係者ばかりだったが、日程が進むにつれて会社の同僚の応援でにぎわった。大会第3日にはゴール後方に満月が浮かぶというおみやげまでついた。『体育館の方が雨天の場合の心配がないのでよい。加盟社のブラザー工業の好意でナイターということにしたわけだ』（同連盟の話）という。勤めを終わって好きなスポーツでひと汗かき、満足そうに引き揚げて行く選手たちの顔。『アマチュア精神ここにあり』とでもいおうかー。

×　×　×

恐るべし中国の力
日本はもっと努力を
西ドイツ週刊誌から

日本のハンドボール界も数度のヨーロッパ遠征を通じて着々発展の途上にある。そこで西ドイツのハンドボール誌に掲載された〝日本ハンドボール観〟を紹介してみよう。この記事は4月日本のチームの中国遠征したときのものであり、かなりきびしい見方をしている。

日本のハンドボール界は世界選手権への参加、各国チームの遠征から見て、まだ国際レベルからはかなり下である。ヨーロッパ諸国と互角の試合ができるのはまだまだ遠いことであろう。かなりの努力が必要であるまた多く国際試合を行ない、試合慣れすることも必要だ。中国遠征での日本の成績は日本にとってかなりショックであったに違いない。日本の力をかなり高く買っていた西ドイツでは驚きであった。と同時に中国に対してかなりの警戒を強めた。西ドイツの予想では悪くいって日本と中国とはタイ、おそらく日本が6分4の有利という見方が強かった。過去におけるルーマニアー中国の対戦、ソ連ー中国の試合の結果を見て、〝中国恐るべし〟との考えはヨーロッパ諸国内にかなり広がっていたが、今度の日本ー中国の結果はかなりの注目を集めた。

日本の実力は過去における世界選手権の試合でおおよそのメドはついていたが、この結果はヨーロッパ諸国にかなり深刻なショックを与えた。いずれは中国を強敵として相手にしなければならない。ヨーロッパ諸国でこれだけの反応が得られているのは注目に価する。西ドイツとしてはもっと切実な問題として取り上げなければならない。

―○―

IOC総会で模範試合
10月・マドリードで

10月マドリード（スペイン）で開かれたIOC（国際オリンピック委員会）総会でメキシコ・オリンピック大会の実施種目が決まった。国際ハンドボール連盟は各国協会と協力してハンドボールの採用のため、IOC総会のさいにマドリードでデモンストレーション試合を行なった。会議の参加者はハンドボールの良さ、美しさをじゅうぶん理解した。このプランはIOCブランテージ会長の同意を得て行なわれたもの。

×　×

第20回国民体育大会

大崎電気(一般男子)の5連勝確実

第20回国民体育大会は10月24日から岐阜県下で行なわれる。ハンドボール競技は25日から29日まで高山市中山競技場で展開される。組み合わせ次のとおり。

高校は桜台(男)城北(女)か?

寂しい一般女子 大崎電気の欠場

10月25日・岐阜県高山市

第20回国民体育大会組み合わせ

(一般男子)

埼玉(大崎電気)
熊本(熊本クラブ)
三重(本田技研)
北海道(函館サンダー・ク)
兵庫(富士レジンク)
愛媛(住友化学菊本)
岩手(盛岡商友会)
愛知(桜丘会)
福島(安積ク)
香川(高松一高OB)
和歌山(丸善石油)
山口(徳山ク)
神奈川(全神奈川)
長野(北農ク)
東京(千代田印刷機)

大阪(宗形製作所)
秋田(大曲ク)
富山(氷見ク)
広島(菊商会)
京都(京都ク)
山梨(塩山ク)
静岡(清商ク)
福岡(岡野バルブ)
鹿児島(鹿児島ク)
岐阜(常盤工業)
茨城(自衛隊勝田)
奈良(奈良ク)
栃木(足利球友会)
宮城(東北学院大OB)
新潟(全新潟)

(一般女子)

熊本(大洋デパート)
山形(三菱鉛筆)
栃木(栃本女子ク)
岡山(全岡山)
北海道(函館ク)
岐阜(揖斐川電気)
愛知(愛知紡)
富山(氷見ク)
愛媛(愛媛ク)
神奈川(東京重機)
大阪(寝屋川ク)
三重(田村紡)

(教員)

岐阜(岐阜教員)
香川(香川教員ク)
北海道(函館教員ク)
岩手(岩手教員ク)
岡山(岡山教員)
静岡(静岡県教員団)
東京(東京桜友会)
福岡(福岡教員ク)
長野(長野教員)
兵庫(スワロー兵庫)

(高校男子)

愛知(桜台)
富山(氷見)
大阪(佐野工)
茨城(麻生)
北海道(室蘭商)
岐阜(加納)
宮城(古川工)
熊本(熊本市商)
山口(下関中央工)
愛媛(新居浜工)

(高校女子)

静岡(静岡城北)
大阪(枚方)
北海道(室蘭商)
岐阜(加納)
富山(有磯)
広島(山陽女)
宮城(涌谷)
愛媛(新居浜西)
栃木(栃木女子)
熊本(菊池農)

国体ブロック予選記録

函館サンダー・ク

◇北海道（9月11日―12日、函館中部高校）

▼高校男子1回戦
室蘭商 22―8 函館工
函館有斗 11―10 室蘭清水丘
函館商 19―8 室蘭東

▽準々決勝
室蘭商 25―9 登別
函館有斗 13―12 紋別
函館東 20―10 函館中部
函館商 19―6 札幌商

▽準決勝
室蘭商 15―9 函館東
函館有斗 17―7 函館商

▽決勝
室蘭商 17（11―8、6―4）12 函館有斗

▼高校女子1回戦
遺愛女子 4―3 室蘭東
室蘭清水丘 9―7 函館東

▽準決勝
室蘭商 24―4 遺愛女子
室蘭清水丘 10―7 函館中部

▽決勝
室蘭商 13（5―3、8―5）8 室蘭清水丘

▼教員決勝
函館教員 28（11―5、17―11）16 室蘭教員

▼一般女子決勝
函館ク 13（4―6、6―5…3―1、0―0）12 室蘭ク

▼一般男子決勝
函館サンダー・ク 10（5―2、5―1）3 室蘭ク

関東選手権は大崎

◇関東（9月10日―12日、千葉県佐原高、佐原中）

▼高校男子1回戦
明星（東京） 26―8 足利（栃木）
塩山商（山梨） 21―7 法政二（神奈川）
浦和市立（埼玉） 21―14 富岡（群馬）
麻生（茨城） 22―9 佐原（千葉）

▽準決勝
塩山商 16―13 明星
麻生 24―14 浦和市立

▽決勝
麻生 14（7―7、7―6）13 塩山商

▼高校女子1回戦
水海道二（茨城） 25―6 山梨（山梨）
栃木女（栃木） 12―2 桜水商（東京）
平塚江南（神奈川） 5―4 佐原女（千葉）
前橋市女（群馬） 8―4 熊谷商工（埼玉）

▽準決勝
栃木女 7―6 水海道二
前橋市女 12―9 平塚江南

▽決勝
栃木女 10（3―0、7―0）0 前橋市女

▼教員1回戦
全神奈川教員団（神奈川） 15―13 千葉クラブ（千葉）
桜友会（東京） 26―13 山梨県教員（山梨）
全茨城教員（茨城） 18―16 埼玉教員ク（埼玉）
群馬教員（群馬） 29―17 栃木教員（栃木）

▽準決勝
桜友会 24―13 全神奈川教員団
全茨城教員 19―15 群馬教員

▽決勝
桜友会 26（13―7、13―9）16 全茨城教員

▼一般女子リーグ

「A組」
東京重機（神奈川） 24―4 高市女OG（群馬）
全茨城（茨城） 14―7 高市女OG
東京重機 7―6 全茨城

「B組」
栃木女子ク（栃木） 34―0 佐原女子ク（千葉）
梨窓ク（山梨） 10―1 佐原女子ク
栃木女子ク 21―0 梨窓ク

この結果、東京重機、栃木女クが代表。

「参考」

▼関東選手権1回戦
東京重機 8―6 栃木女子ク

▽決勝
大崎電気（埼玉） 19―7 東京重機

▼一般男子リーグ

「A組」
塩山ク（山梨） 22―16 桐生ク（群馬）
千代田印刷機（東京） 7―5 足利球友会（栃木）
足利球友会 22―16 塩山ク
千代田印刷機 24―13 桐生ク
千代田印刷機 12―12 塩山ク（引き分け）
足利球友会 23―7 桐生ク

「B組」
大崎電気（埼玉） 36―8 勝田自衛隊（茨城）
全神奈川（神奈川） 24―4 佐原ク（千葉）
全神奈川 23―15 勝田自衛隊
大崎電気 41―3 佐原ク
勝田自衛隊 21―11 佐原ク
大崎電気 22―6 全神奈川

この結果、大崎電気、全神奈川、勝田自衛隊、千代田印刷機、足利球友会、塩山クが代表。

「参考」

▼関東選手権決勝
大崎電気　20－2　千代田印刷機

氷見、有磯が優勝

◇北陸（9月11日－12日、金沢市立兼六中学）
▼高校男子1回戦
上田（長野）22－16　二水（石川）
▽準決勝
氷見（富山）27－13　藤島（福井）
上田　12－10　柏崎（新潟）
▽決勝
氷見　14（7－2、7－8）10　上田
▼高校女子1回戦
有磯（富山）21－5　高志（福井）
▽準決勝
常盤（新潟）20－14　上田城南（長野）
有磯　9－1　小松市女（石川）
▽決勝
有磯　8（4－5、4－2）7　常盤
▼教員1回戦
新潟教員　29－25　福井教員
▽準決勝
長野教員　13－11　富山教員
新潟教員　26－11　石川教員
▽決勝
長野教員　25（11－3、14－9）12　新潟教員
▼一般女子1回戦
全新潟（新潟）15－5　福井商OG（福井）
▽決勝
氷見ク（富山）14（9－2、5－3）5　全新潟
▼一般男子1回戦
北農ク（長野）29－9　福井商OB（福井）
▽準決勝
北農ク　20－14　金沢市役所（石川）
氷見ク（富山）14－12　全新潟（新潟）
▽3位決定戦
全新潟　24－13　金沢市役所
▽決勝
氷見ク　26（14－3、12－8）11　北農ク
この結果、氷見ク、北農ク、全新潟が代表。

田村紡、愛知紡勝つ

◇東海（9月11日－12日、四日市工高）
▼教員リーグ
静岡教員団　27－10　三重教員ク
岐阜教員　17－7　愛知教員ク
岐阜教員　31－14　三重教員ク
静岡教員団　13－9　愛知教員ク
愛知教員ク　21－18　三重教員ク
岐阜教員　22－12　静岡教員団
▽一般女子リーグ
揖斐川電気（岐阜）7－5　静岡城北ク（静岡）
田村紡（三重）5－5　愛知紡（愛知）引き分け
田村紡　21－1　静岡城北ク
愛知紡　13－2　揖斐川電気
愛知紡　13－4　静岡城北ク
田村紡　21－2　揖斐川電気
この結果、田村紡、愛知紡が代表。
▼一般男子リーグ
桜丘会（愛知）14－14　清商ク（静岡）引き分け
本田技研（三重）15－15　常盤工業（岐阜）引き分け
本田技研　18－15　清商ク
桜丘会　20－13　常盤工業
常盤工業　14－12　清商ク
桜丘会　13－12　本田技研
この結果、桜丘会、本田技研、清商クが代表。

教員は岡山が勝つ

◇中国（9月12日、徳山市体育館徳山高体育館）
▼高校男子1回戦
松江工（島根）18－6　境（鳥取）
▽準決勝
松江工　14－7　修道（広島）
下関中央工（山口）19－10　天城（岡山）
▽決勝
下関中央工　19（8－2、11－10）12　松江工
▼女子高校1回戦
山陽女（広島）17－7　井原（岡山）
徳山（山口）28－4　島根農大付（島根）
▽決勝
山陽女　9（2－1、7－5）6　徳山
▼一般男子リーグ
徳山ク（山口）28－21　菊商会（広島）
徳山ク　33－11　天城高OB（岡山）
菊商会　38－16　天城高OB
この結果、徳山ク、菊商会が代表。
▼教員決勝
岡山教員　17（8－5、9－7）12　山口教員
▼一般女子決勝
岡山ク（岡山）10（6－4、4－4）8　徳山ク（山口）

一般女子は愛媛ク

◇四国（9月5日、高知市追手前高）
▼一般男子リーグ
住友化学（愛媛）24－18　高松一高OB（香川）
住友化学　33－11　高知ク（高知）
高松一高OB　23－10　高知ク
この結果、住友化学、高松一高OBが代表。

▼一般女子決勝
愛媛ク（愛媛）15（8―1／7―5）6 高知西ク（高知）
▼教員リーグ
愛媛教員 17―12 高知教員
香川教員 30―9 高知教員
香川教員 26―16 愛媛教員
▼高校男子リーグ
新居浜工（愛媛）20―1 高松一（香川）
土佐（高知）13―9 高松一
新居浜工 23―8 土佐
▼高校女子リーグ
高知西（高知）9―7 三本松（香川）
新居浜西（愛媛）22―5 三本松
新居浜西 12―4 高知西

岡野バルブ圧倒的

◇九州（9月11日―12日、熊本県立済々黌高校）
▼一般男子1回戦
岡野バルブ（福岡）22―21 熊本ク（熊本）
鹿児島ク（鹿児島）34―22 大分ク（大分）
▽3位決定戦
熊本ク 20―14 大分ク
▽決勝
岡野バルブ 39（17―9／22―9）18 鹿児島ク
この結果、3位までが代表。
▼一般女子決勝
大洋デパート（熊本）12（7―2／5―1）3 大分府内ライオンズ（大分）
▼教員1回戦
福岡教員 21―17 大分教員
熊本教員 43―15 長崎教員
▽決勝
福岡教員 18（6―8／12―7）15 熊本教員
▼高校男子1回戦
鹿児島工（鹿児島）20―12 西海学園（長崎）
▽準決勝
鹿児島工 13―11 大分東（大分）
熊本市商（熊本）23―18 香椎（福岡）
▽決勝
熊本市商 23（9―3／14―7）10 鹿児島工
▼高校女子1回戦
大分東（大分）14―9 都城西（宮崎）
▽準決勝
菊池農（熊本）9―5 明善（福岡）
大分東 17―0 佐世保商（長崎）
▽決勝
菊池農 8（4―0／4―2）2 大分東

◇東北（9月16日～19日、秋田県湯沢市）
▼高校男子1回戦
盛岡一（岩手）10―5 仙台一（宮城）
大曲農（秋田）21―10 青森（青森）
東根工（山形）11―10 安積（福島）
古川工（宮城）12―8 湯沢（秋田）
▽準々決勝
盛岡一 25―8 福島（福島）
大曲農 29―7 寒河江（山形）
青森商（青森）11―10 東根工
古川工 21―19 花巻北
▽準決勝
盛岡一 19―18 大曲農
古川工 22―11 青森商
▽決勝
古川工 13（5―5／8―6）11 盛岡一
▼女子高校1回戦
小高農（福島）7―5 六郷（秋田）
▽準々決勝
涌谷（宮城）13―9 小高農
花巻南（岩手）17―8 米沢女（山形）
和洋女（秋田）11―2 宮城二（宮城）
盛岡二（岩手）13―6 梁川（福島）
▽準決勝
涌谷 22―2 花巻南
和洋女 9―6 盛岡二
▽決勝
涌谷 9（3―5／6―2）7 和洋女
▼一般女子1回戦
全宮城（宮城）7―3 オール花巻（岩手）
▽決勝
三菱鉛筆（山形）10（5―2／5―5）7 全宮城
▼教員1回戦
岩手教員（岩手）35―13 大曲教員（秋田）
福島教員（福島）49―17 青森教員（青森）
▽準決勝
岩手教員 28―11 山形日体OBクラブ（山形）
福島教員（福島）14―7 宮城教員（宮城）
▽決勝
岩手教員 19（8―9／11―4）13 福島教員
▽一般男子順位
① 東北学院大OB（宮城）
② 盛岡商友会（岩手）
③ 安積クラブ（福島）
③ 大曲クラブ（秋田）
＝以上国体代表＝
⑤ キタシロクラブ（山形）
⑥ 青森クラブ（青森）

東軍逃げ切る

全日本学生東西対抗

第15回全日本学生選抜東西対抗は9月19日午後3時から名古屋市の愛知県体育館で約三千の観衆を集めて行なわれた。試合は後半西軍が奮起して1点を争う好試合となったが、終盤にはいって東軍が調子を取り戻し逃げ切った。東軍は2年ぶりの勝利。通算成績は東軍の8勝7敗。

東軍 26（15―9／11―15）24 西軍

「レフェリー」山田（日体大OB）

【交代】▼東軍GK尾形（立大）FP菅原（東北学院大）、林（立大）▼西軍GK林谷（同志社大）FP柏原（広島商大）

得	【西軍】		【東軍】	得
0	平松（関大）	GK	牧（中京大）	0
6	平岩（関大）	FP	北井（教大）	5
0	斎藤（同志社大）		吉金（芝浦工大）	2
0	石井（関学）		福本（明大）	3
3	市橋（京大）		近藤（芝浦工大）	4
6	飯端（関学）		木野（立大）	5
4	飯田（同志社大）		北村（立大）	5
3	林（同志社大）		小林（日体大）	0
0	北田（立命館大）		清元（中大）	0
1	辻野（京大）		大西（教大）	2
1	窪崎（関大）		黒川（中京大）	0
0	田中（広島商大）		藤城（立大）	0
24	（2）	7MT	（2）	26

連載第18回

ハンドボール球史

～国体編から関西学生編へ～

21号から連載した「国体編」はとりあえず本誌26号で完結とする。第1回（昭21）から第13回（昭33）までを収録したわけで、第14回大会以後は、次のように本誌各号に記載されている。

▽第14回（昭34）……1号26頁
▽第15回……………4号8頁
▽第16回……………8号10頁
▽第17回……………12号12頁
▽第18回……………16号18頁
▽第19回……………18号18頁

ところで先の「国体編」にしろ「関東学生編」にしろ、この古い記録がいかに保存されていないか、そしていかに人間の記憶がたよりないものかを痛感した。たとえば21号に掲載した第2回国体の学生女子東西対抗の記録を

東（埼玉女師範） 3（2－2, 1－0）2 西（全石川選抜）

としたところ、東京の一読者から「あの試合は確かに延長戦だった」という投書が寄せられた。私のメモでは後半で勝負がついたようになっていたのだが、調べ直してみるとなるほど延長戦。しかも第一延長では勝負がつかず、最後は互いに13メートルスローを行なって「決勝点」を決めるという全く珍しいケースの試合なのである。

というわけだ。

ところが「埼玉県体育協会史」によると、この試合は0－0で延

東（埼玉女師範） 3（1－1, 1－1 … 0－0, 0－0 … 12MTにより 1－0）2 西（全石川選抜）

長後も勝負がつかず、そこで13MTの結果1－0で東軍（埼玉女師範）が勝ったとされている。13MTで勝負を決めたのは同じだが、3－2だろうか、1－0だろうか。二、三人の人々に聞いてみたが、そのような古い試合を聞き出す私をけげんな顔つきで見て「そんなことあったような気もするなア」というあいまいな返事。当時、唯一のスポーツ専門紙「日刊スポーツ」を見つけ出し、3－2が〝正解〟とわかったのは投書をいただいてから約3カ月後だった。この試合、まだひだひとつ不明な点が残る。史上まれな〝決勝13MT〟のシューターはだれだったかだ。そのヒーローの名前をご記憶のかたがいましたら、ぜひ教えてください。

第3回大会に一般女子の府県対抗が行なわれたのではないかという質問もよく受けた。21号を見ていただければわかるとおり、そのような部門は行なわれてないい。第3回大会に一般女子府県対抗が行なわれたとする代表的な文献は「朝日運動年鑑昭和24年版」（163頁）と「旺文社スポーツシリーズ・ハンドボール」の二つだ。両書によれば、一般女子東西対抗のほかに府県対抗が行なわれていたようになっており、決勝の記録は「三重3－2福島」とある。福島協会の創立は昭和22年12月、三重協会の活動開始は昭和23年春（協会創立は25年4月）だから両県にチームがなかったとはいえない。第3回大会のころは一般男子でさえ、やっと全国から8チームがそろって地区対抗を初めて行なった年である。女子にそのような部門が行なわれたとは思われない。それではなぜ、そのスコアが残っているのだろう。おそらく他競技のスコアが間違って運動年鑑に印刷され、それが他の書にも写されているのではないか。三重の優勝ということも考えると、「軟式庭球」あたりの記録だと私は思う。

こうして記録集めをしていると、思わぬところで脱けていた試合記録がわかることがある。第2回国体中学男子は12校が参加。1回戦は4試合が行なわれたわけだが、2試合の記録しか手元になく、はっきりしないまま21号に掲載した。それが、なにげなく読み返していた本誌14号の茨城県球史で、麻生中（茨城）の参加がわかり、1回戦の

天王寺（大阪） 8－0 麻生（茨城）

の記録も同時に知るところとなった。残る1校とその1試合はいぜんとしてわからない。古い記録が整備されていない原因は、終戦直後の各新聞が現在のように大々的にスポーツ記事のスペースを持たなかったからだ。用紙事情などによるもので仕方がない。しかし、まるっきり試合記録が掲載されていなかったわけではない。やはり協会の記録保存に対する姿勢がじゅうぶんでなかったといってよいだろう。陸上競技や水泳と違って記録が重大な意味を持つわけではない。したがってとかくルーズになりがちだが、一試合一試合に青春をかけた選手たちの汗まみれの姿が刻まれているのだ。「先輩の業績」を残す意味でも整備すべきだ。

さて「国体編」に続いて今号から「関西学生リーグ」を掲載しようと思う。正直なところ「関西学生」に関する私の持つ資料は乏しい。ハンドボールに限らず、スポーツ界の多くは関東学生に比べて関西学生界の実績というものにスポットが当てられることが少ない。これは各競技の発展が関東諸校を中心にしてきたからである。実力的にも関東側が関西をしのいでいたことが原因していよう。ハンドボールに関しては、戦前はともかく戦後は関西勢（主に関学だが）が長く学生王座についてい

た。戦後のハンドボール史に大きな位置を占めていたといってい い。その史的価値は見のがすわけにはいかず、不備を承知であえて掲載することにした。読者諸兄、とりわけ関西OB諸氏のご協力をお願いしたい。(NHK=杉山)

関西学生の黎明期

関西学生リーグの発足は昭和23年春だ。関東学生リーグの発足に遅れること10年。戦前は無活動にひとしいといってもよかろう。学生リーグの発足はおそくなったが、関西学生チームの中央への初登場は第2次大戦直後である。昭和21年11月西宮で開かれた第1回国体の学生東西対抗に、西軍代表として大阪歯科専が登場したのがそれだ(球史第12回=本誌第21号参照)。同時にこの試合は東西の学生チームの公式的な初の交流として記録されなければならない。

国体の東西対抗には東軍側は予選を行なって早大が代表になった記録が残されているが、西軍側についてはわからない。

国体終了後の11月22日西宮で関学—早大の第1回定期戦を行なっているのをみると、おそらく西側も大阪歯専、関学を中心に当時活動していたチームで予選を行なっていたものと思われる。とすれば、その予選会は関西学生リーグ発足への母体となる大きな意味を持っていたことになろう。注目されるのは国体、早関定期戦とも関西側が早大を破ったことである。スコアは国体が大阪歯専5—1早大、定期は関学5—4早大である。戦争による中断があったとはいえ、昭和12年から活動を始めていた先進の関東側がデビュー間もない関西側に連敗したのを奇異に感じられる方も多いだろう。

関東側の戦前の活動はハンドボール専門のプレーヤーが少なく、バスケットボール、サッカー、ラグビーとの兼任者、転向者が多かった。時日の割りにハンドボールと本格的に取り組む期間は短かった。むしろ大阪、岡山、兵庫(神戸)など関西側は、ハンドボール専門の指導者やプレーヤーが多かった。短時日の間に関東側と肩を並べるところまでに成長したことはじゅうぶんに想像できる。昭和21年1月の東西対抗で西軍が7—2で圧勝、11月の国体4部門で西日本勢(主に大阪、岡山)が大活躍したのはこの間の事情を示すものではなかろうか。ともあれ、関西学生界がそのスタートにおいて関東学生をしのぐレベルにあったことは、特筆されなければならない。明けて昭和22年10月の国体を前に関西予選が大阪歯専、関学、大阪工専、大阪第二師範の4校によって行なわれ、大阪歯専が3勝して代表に決まった。

この予選が行なわれるまでの昭和22年春から秋にかけて関西学生界がどのような活動を行なっていたか手元には記録も資料もない。馬場太郎氏から「5月ごろ大会が一つ開かれたような記憶があるが、22年か23年かはっきりしない」という話を聞いたと思っている。

話が横道にそれたが、国体では代表の大阪歯専が再び早大と対戦し、延長のすえ10—8で敗れて連勝はならなかった(球史第12回=本誌21号参照)。国体にさきがけて行なわれた第2回早関定期戦でも関学は14—7で早大に敗れ、このシーズンは早大に名をなさしめた。国体を一つの目じるしにして、関西諸校結束の機運は昭和22年の後期から次第に盛り上がり、関西学生リーグの発展も間近かになった。昭和23年にはいってすぐ1月7日西宮で「東西交流戦」が開かれた。関東側4校が遠征したのに対し大阪歯専と関学が参加しただけ。

ちなみにその大会の記録は次のとおり。

関学予科 6 (2—0, 4—0) 0 関東大学予科選抜

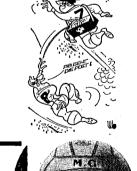
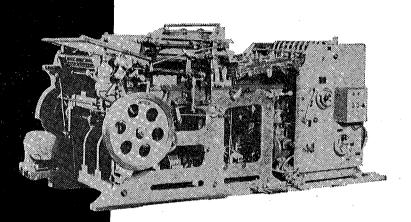
早大・明大・文理大連合 9 (4—1, 1—4, 4—0, 0—1) 6 大阪歯専

関学 10 (5—0, 5—0) 0 慶大

この大会が終わって関西学生連盟の発足が正式化し、リーグ戦の前哨ともいうべき「関西大学・高専トーナメント」が3月27日から3日間西宮で開かれた。難問題も多かったが、ここまでこぎつけたのは大阪歯専、関学両校の力によるところが大きい。前哨トーナメントには前年京都で開かれた「第1回全国高校(旧制)大会」に出場し優勝した大阪高校と準優勝の甲南高、それに四高などが参加、大学勢にまじって健闘した。決勝は大阪歯専と関学との顔合わせとなり、

大阪歯専 4 (1—0, 3—2) 2 関学

となった。そしていよいよ5月31日から大阪歯専、関学、大阪理大、大阪医大、立命大、京大、神戸経済大、関大の8校によって「関西学生リーグ」が開幕するのである。(以下次号)

◇　◇　◇

初代会長に古賀和佐雄氏

全日本実業団連盟初の常務理事会

全日本実業団ハンドボール連盟はことし2月大阪で開かれた準備委員会で創立を承認し、その後世話人である渡辺和美氏（大崎電気工業株式会社社長）が各方面に接衝を続けてきた。渡辺氏は初代会長に小杉仁造氏（愛知紡績株式会社社長）を推したが、小杉氏の固辞が意外に強く、あらためて人選を練り直した。この結果、古賀和佐雄氏（千代田印刷機製造株式会社社長）に交渉し、同氏の快諾があった。このため同連盟は10月11日午後6時から東京・品川の大崎電気工業株式会社で連盟初の常務理事会を招集した。

▽出席者

古賀和佐雄（千代田印刷機社長）渡辺和美（大崎電気社長）鈴木達雄（レナウン工業社長）山岡憲一（東京重機工業社長＝代理）宗形年閼（宗形製作所社長＝代理）数原洋二（三菱鉛筆社長）須崎潔（揖斐川電気工業社長＝代理）

▽議事

（1）初代会長に古賀和佐雄氏を推薦。副会長以下役員を選任した。

（2）連盟事務所を東京都品川区五反田一ノ二六三、大崎電気工業株式会社内に置く、（電話441−2110）

（会）来年2月の第6回全日本実業団選手権大会を大阪市で開くことを決めた。また第7回大会を名古屋市、第8回大会を熊本市、第9回大会を東京都で開く案を検討、近く関係各都県協会に協力を求める。

役員名簿

▽会長　古賀和佐雄（千代田印刷機製造社長）

▽副会長　田村正衛（田村紡績社長）宗形年閼（宗形製作所社長）岡部正実（岡野バルブ社長）

▽理事長　渡辺和美（大崎電気工業社長）

▽常務理事　山口亀鶴（大洋デパート社長）須崎潔（揖斐川電気社長）水野利八（美津濃社長）小杉仁造（愛知紡績社長）数原洋二（三菱鉛筆社長）

▽監事　鈴木達雄（レナウン工業社長）山内清次（常盤工業社長）

▽理事　古賀健一郎（千代田印刷機専務）黒川正雄（レナウン工業人事部長）岩崎美栄子（大崎電気社長秘書）田中滋章（タヨシ産業）

このほか本田技研、丸紅飯田、日東電気工業、京都市役所、盛岡市役所、住友化学菊本、自衛隊第32普通科連隊、三菱レイヨン大竹から代表者を選出してもらう。

関東学生秋季リーグ日程

関東学生秋季リーグ戦は10月19日から11日5日まで東京・駒沢球技場で行なわれる。日程次のとおり。

「一部」

▽10月19日（火）　立大—慶大　教大—茨城大　芝浦工大—明大　中大—日体大

▽23日（土）　日体大—芝浦工大　立大—茨城大　中大—明大　教大—慶大

▽24日（日）　茨城大—中大　慶大—芝浦工大　日体大—教大　立大—明大

▽30日（土）　明大—教大　中大—慶大　立大—日体大　茨城大—芝浦工大

▽31日（日）　中大—立大　明大—茨城大　教大—芝浦工大　慶大—日体大

▽11月3日（祝）　教大—中大　茨城大—日体大　慶大—明大　芝浦工大—立大

▽5日（金）　慶大—茨城大　明大—日体大　芝浦工大—中大　立大—教大

◎東海実業団ハンドボール

◇第1回東海実業団選手権大会（10月3日・愛知県体育館）

「男子」

▽決勝トーナメント一回戦

常盤工業（岐阜）18（8−8 10−4）12 三菱重工（愛知）

本田技研（三重）22（11−6 11−7）13 静岡日野自動車（静岡）

▽3位決定戦

静岡日野自動車（静岡）20（8−4 12−10）14 三菱重工（愛知）

▽決勝

常盤工業（岐阜）22（10−11 12−6）17 本田技研（三重）

▽女子順位　①田村紡2勝②愛知紡1勝1敗③揖斐川電気2敗

編集後記

○…高嶋団長ら一行16人が10月20日夜、羽田からフランス航空機で出発した。選手13人のうち、10人が初の海外遠征である。さぞかし胸をわくわくさせ、飛行機の中でまんじりとしなかったことだろう。それほど海外遠征はうれしいものである。打つ手はすべて打った。あとは24日と26日の試合結果を待つだけである。勝つも負けるも時の運。ただ健闘を祈るのみ。

○…岐阜県の国体で全国の代表が集まる。年に一度の大会だが、やはりうれしい。一般男女、高校男女、教員の5種目が同じコートで優勝を争う。国体ならではのこと。全日本総合選手権優勝の大崎電気（男）、大洋デパート（女）、インターハイ優勝の桜台高（男）、静岡城北高（女）のプレーは大いに期待していい。

○…大崎電気の福本弘君が青木悠子さん（元愛知紡）と結婚したことは9月号（26号）でお知らせした。この朝のこと、むすめが「福本さんって試合中に黄色い声を出すキーパーでしょう。テレビで見ているからよく知っているのよ」。わがむすめがいつの間にかハンドボールファンになっているのに驚いた。と同時にうれしかった。（ふぐ）

日本ハンドボール協会編
ハンドボール 第七二十号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十年十月二十日印刷 昭和四十年十月二十五日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南町二五
電話 (467) 三一一一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 高嶋冽
定価百三十円 (〒)二十円